

平成 30 年度

弘前市ごみ減量・リサイクルに関するアンケート調査

全体版

令和元年 7 月 3 日

弘前市 市民生活部 環境課

1. 調査目的

市民・市内の事業者を対象に、ごみ排出状況や減量・リサイクルについての意識調査を行い、その実態・傾向を把握するとともに、課題等を分析し、今後のごみ減量・リサイクルに関する有効な施策を検証する基礎資料とする。

2. 調査対象・抽出方法

平成30年9月時点で登録されている、弘前市内に住む5,000人の世帯主を住民基本台帳から無作為に抽出、また弘前市内の200事業所を無作為に抽出し、実施。

3. 調査方法

郵送による調査票の発送及び回収。無記名での調査とした。

4. 調査実施時期

平成30年11月9日～12月14日

※平成30年12月21日消印分までを有効とした。

5. 回収状況

・市民アンケート

発送数 5,000 回収数 2,170 (回収率 43.4%)

・事業者アンケート

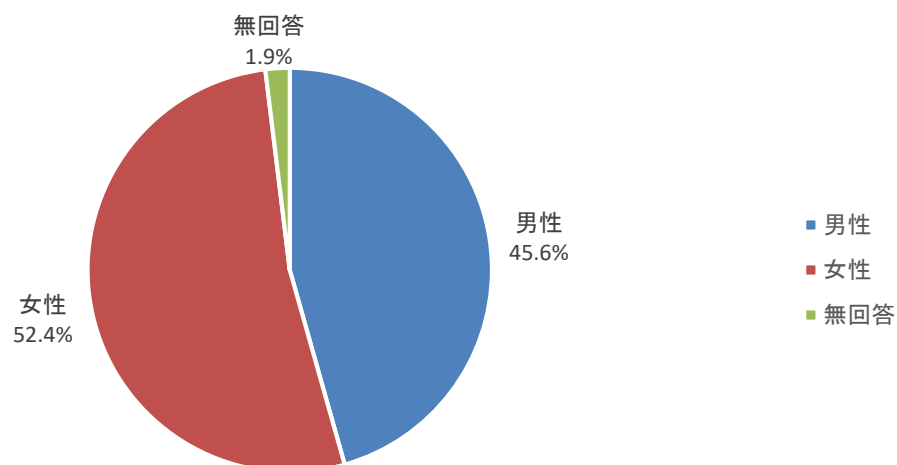
発送数 200 回収数 68 (回収率 34%)

6. 市民アンケート調査結果

I. 回答者に関する情報について

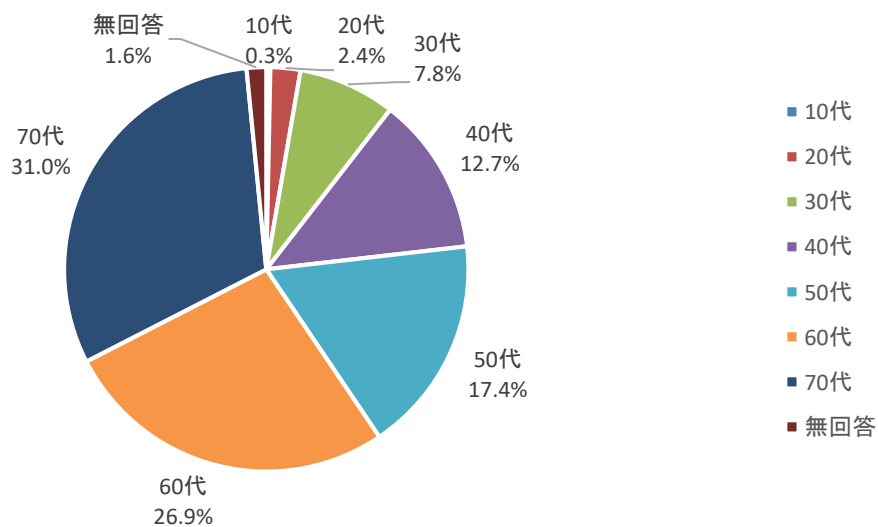
問1. 回答者の性別

アンケートの回答者の性別を聞いたところ、「男性」が45.6%、「女性」が52.4%と、女性が少し上回りました。



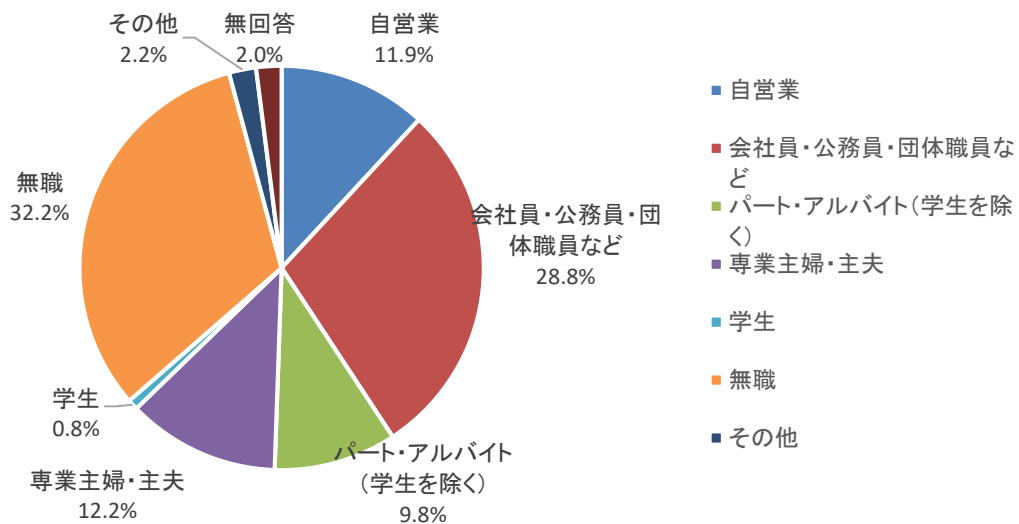
問2. 回答者の年齢

アンケートの回答者を年齢別にみると、「60代」が26.9%、「70代以上」が31.0%で、60歳以上が57.9%と半数以上を占めていました。



問3. 回答者の職業

アンケートの回答者に職業を聞いたところ、回答者の半数以上が60歳以上であったことが影響し、「無職」が32.2%と最も多く、続いて「会社員・公務員・団体職員など」が28.8%でした。

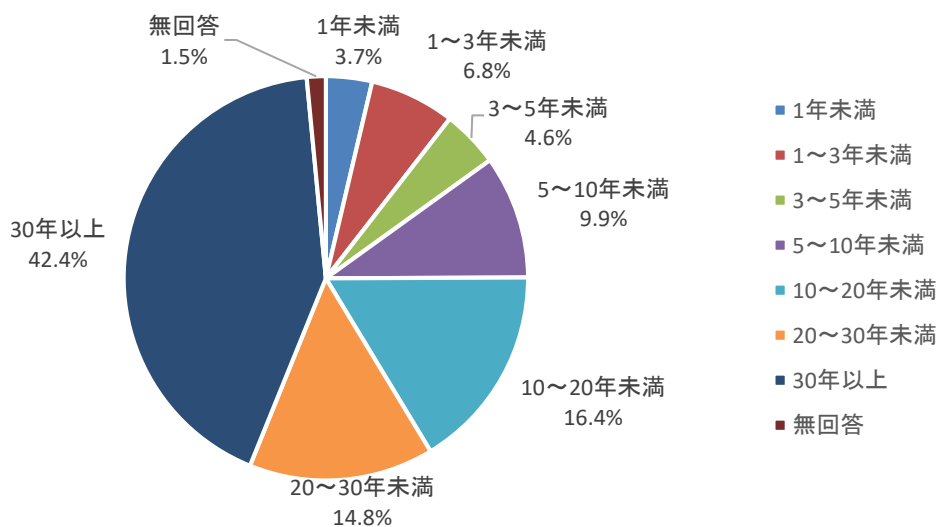


(その他内訳)

会社役員/契約社員/非常勤講師/季節作業員/医師

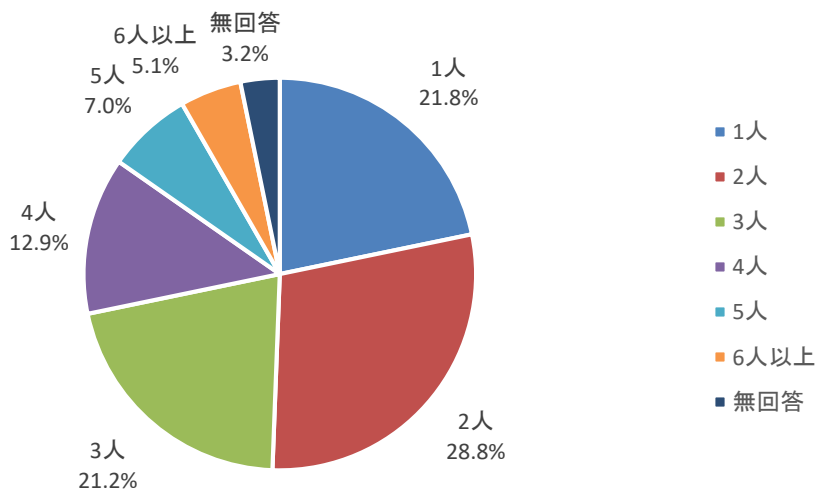
問4. 居住年数

アンケートの回答者に対して住居への居住年数を聞いたところ、「30年以上」が42.4%と最も多く、「20～30年未満」も14.8%で、20年以上居住している回答者が半数以上を占めました。



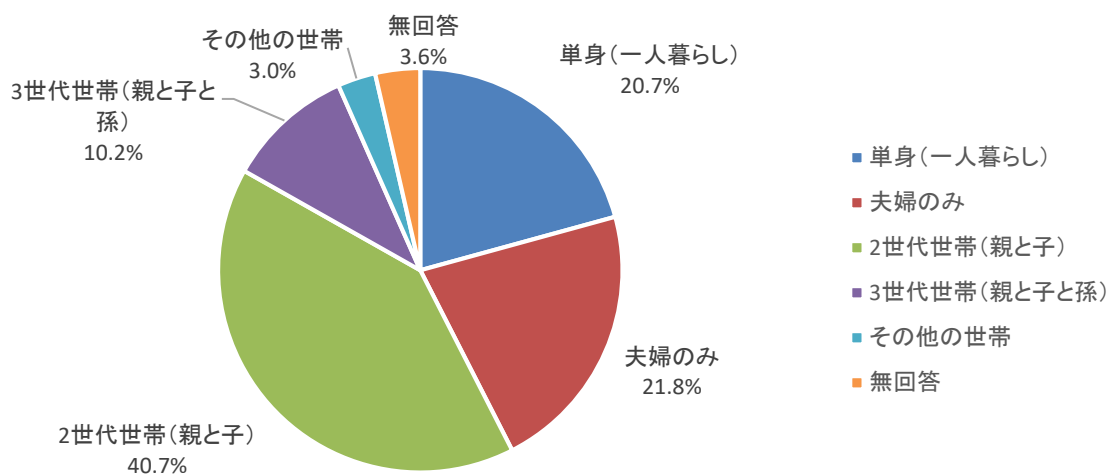
問5. 世帯人数

アンケートの回答者を含む世帯人数について聞いたところ、「2人」が28.7%、次いで「1人」が21.8%、「3人」が21.2%と続きました。



問6. 世帯の家族構成

アンケートの回答者に家族構成を聞いたところ、「2世代世帯（親と子）」が40.7%と最も多く、「夫婦のみ」が21.8%、「単身（一人暮らし）」が20.7%と続きました。



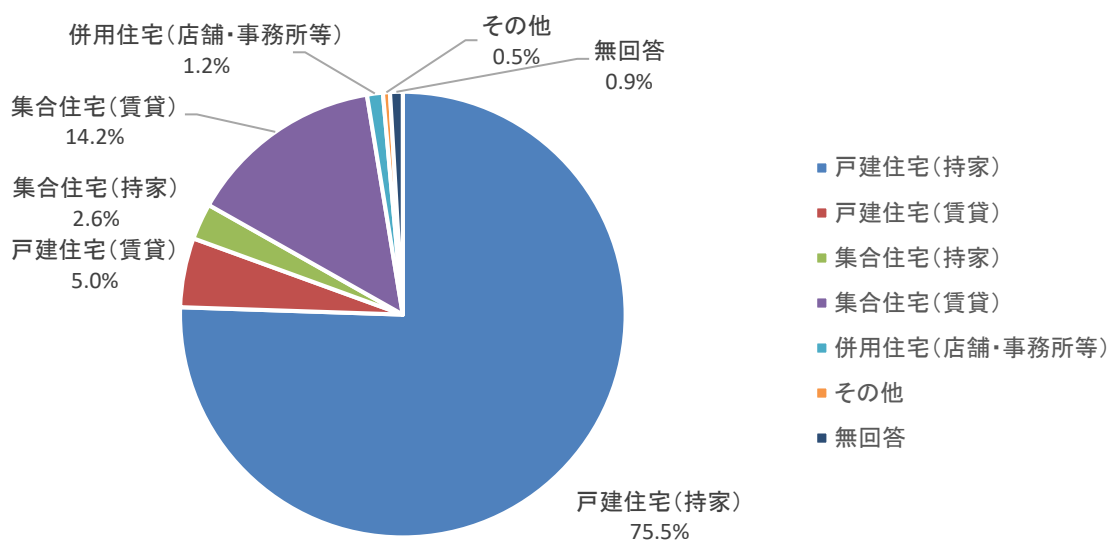
(その他内訳)

兄弟・姉妹/4世代世帯/夫婦と孫

問7. 住居の種類

アンケートの回答者に住宅の形態について聞いたところ、「戸建住宅（持家）」が 75.5%と最も多く、次いで「集合住宅（賃貸）」14.2%でした。

回答者の居住年数が長く、持家比率が高いことから、今回のアンケートの回答者は弘前在住歴が長く、弘前市のごみは排出実態に長年かかわっている方からの回答が多いことが分かります。

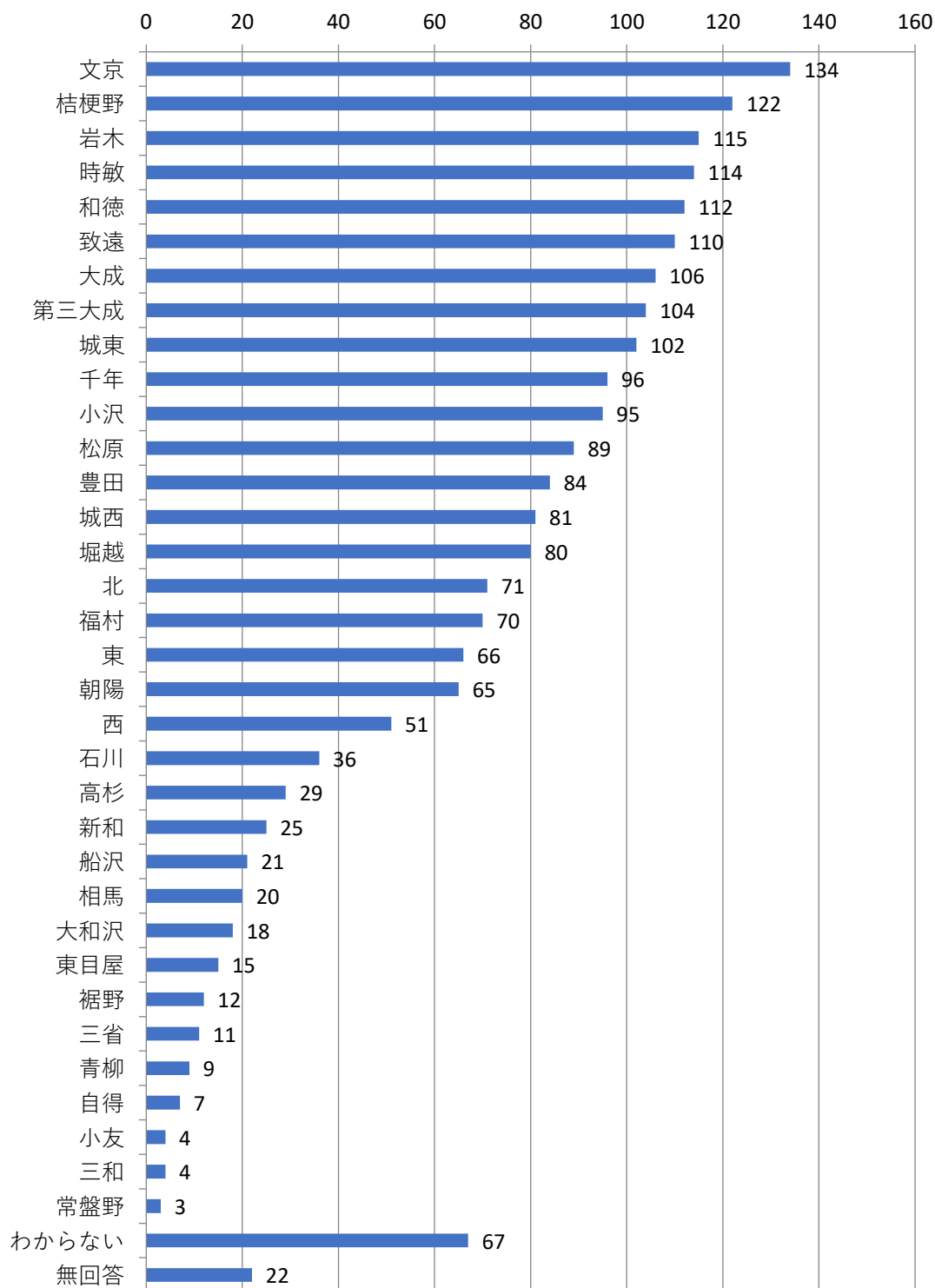


(その他内訳)

社員寮・社宅・官舎/下宿/ケアハウス

問8. 居住地域 (小学校区)

アンケートの回答者にお住まいの小学校区を聞いたところ、「文京」が134件と最も多く、次いで「桔梗野」(122件)「岩木」(115件)「時敏」(114件)「和徳」(112件)でした。



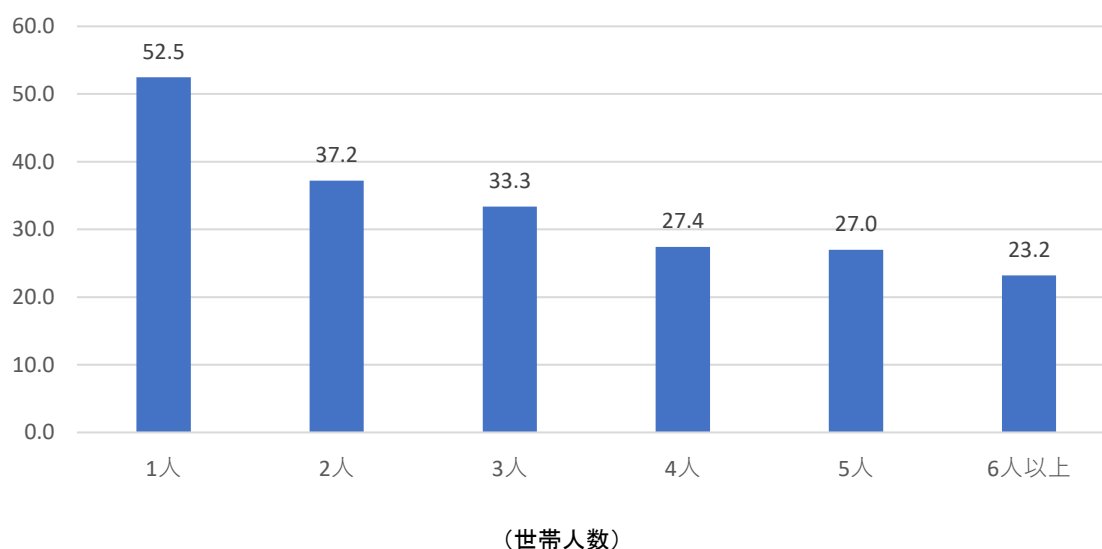
Ⅱ. ごみの排出状況について

問9. 1週間の燃やせるごみの排出量

本アンケートでは、40 リットル、20 リットル、10 リットル、10 リットル未満毎にそれぞれの袋の数を記載する方法とし、袋の容量に記載された袋の数を乗じて、家庭の排出量を算出しました。このうち、10 リットル未満は5 リットルとして計算、6人以上の世帯については個々に人数が異なると考えられますが、ここでは7人として計算しました。

世帯人数ごとに1週間の排出量を算出したところ、「1人世帯」の1週間あたりの排出量が52.5 リットルと最も多く、世帯の構成人数が少ないほど、1人あたりの燃やせるごみの排出量が増加する傾向がみられました。

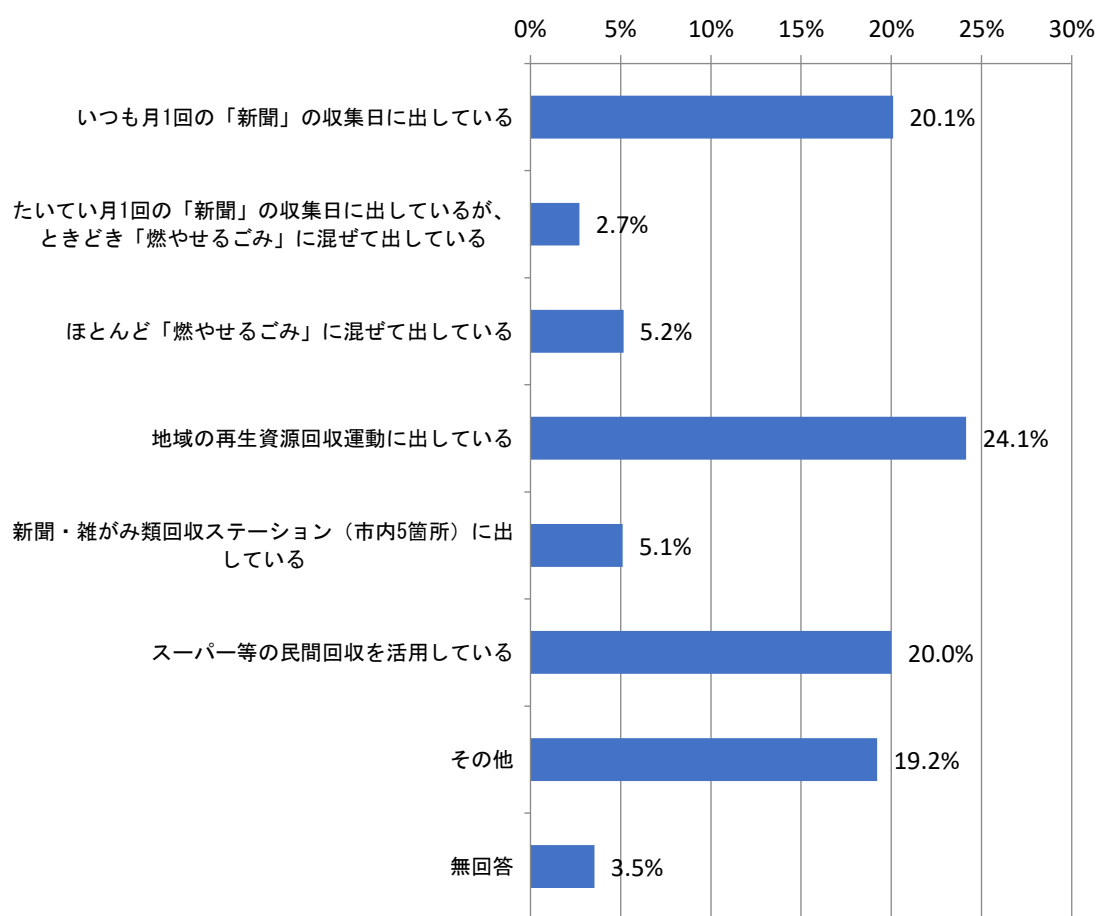
1人1週間あたりの燃やせるごみ排出量 (ℓ/人・週)



問10. ごみの種類ごとの排出方法

問10-① 新聞

「地域の再生資源回収運動に出している」が24.1%と最も多く、次いで「収集日に出している」が20.1%、「スーパー等の民間回収を活用している」が20.0%でした。その他の意見では、未購読や回収業者に出していると回答した方が多く、生ごみを包むのに利用している等、再利用をしているとの意見もありました。全体的に見て新聞は適切にリサイクルに出している傾向が見られましたが、ほとんど又はときどき燃やせるごみに混ぜて出しているが合わせて1割ほどいました。

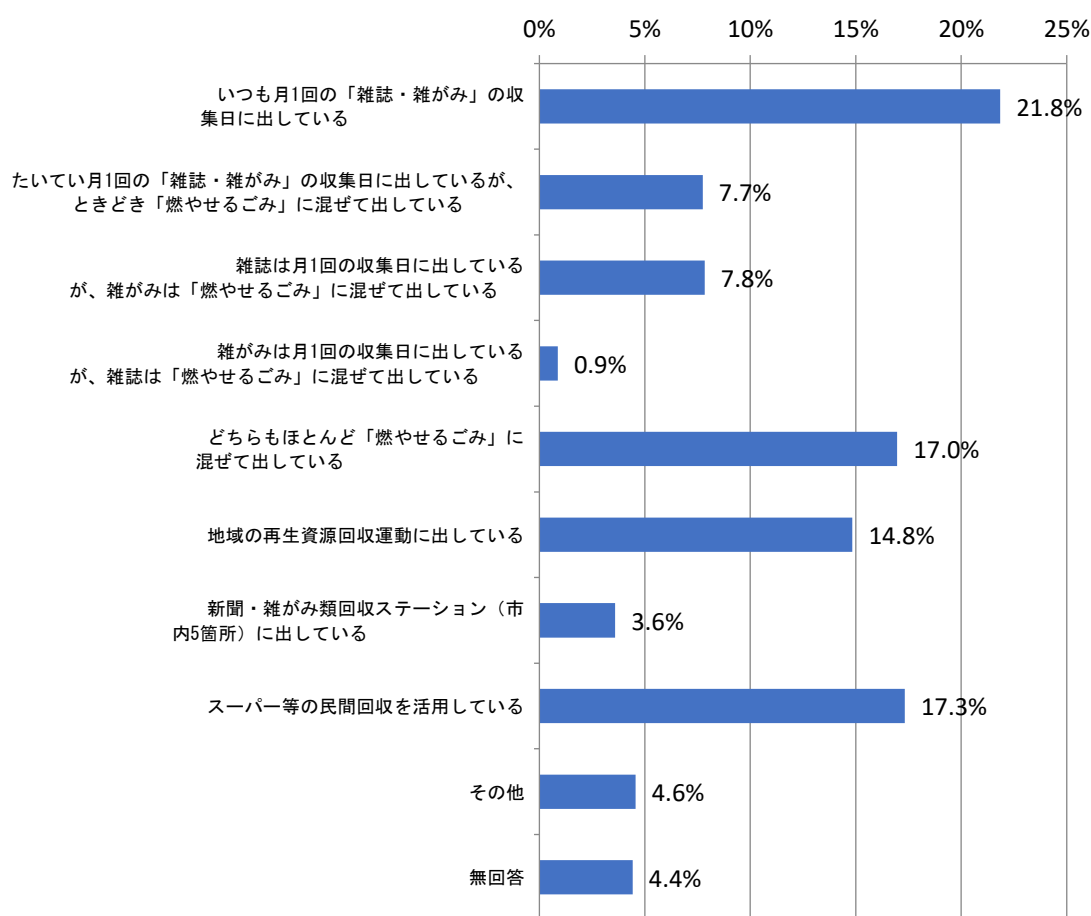


(その他内訳)

未購読/回収業者/再利用/知り合いにあげる/リサイクルモア/
古紙リサイクルセンター

問10-② 雑誌・雑がみ

いつも月1回の「雑誌・雑がみ」の収集日に出している」が21.8%と最も多く、次いで「スーパー等の民間回収を活用している」が17.3%、「地域の再生資源回収運動に出している」と「新聞・雑がみ類回収ステーション（市内5箇所）に出している」を合わせて全体で約6割がリサイクルに出しているものの、「ほとんど燃やせるごみに混ぜて出している」が17.0%いました。また、雑誌に比べて、雑がみを燃やせるごみに混ぜて出している、と答えた割合が多く、その他の意見にも雑誌は民間回収や地域の再生資源運動に出しているが雑がみは燃やせるごみに、という意見も多く見られました。



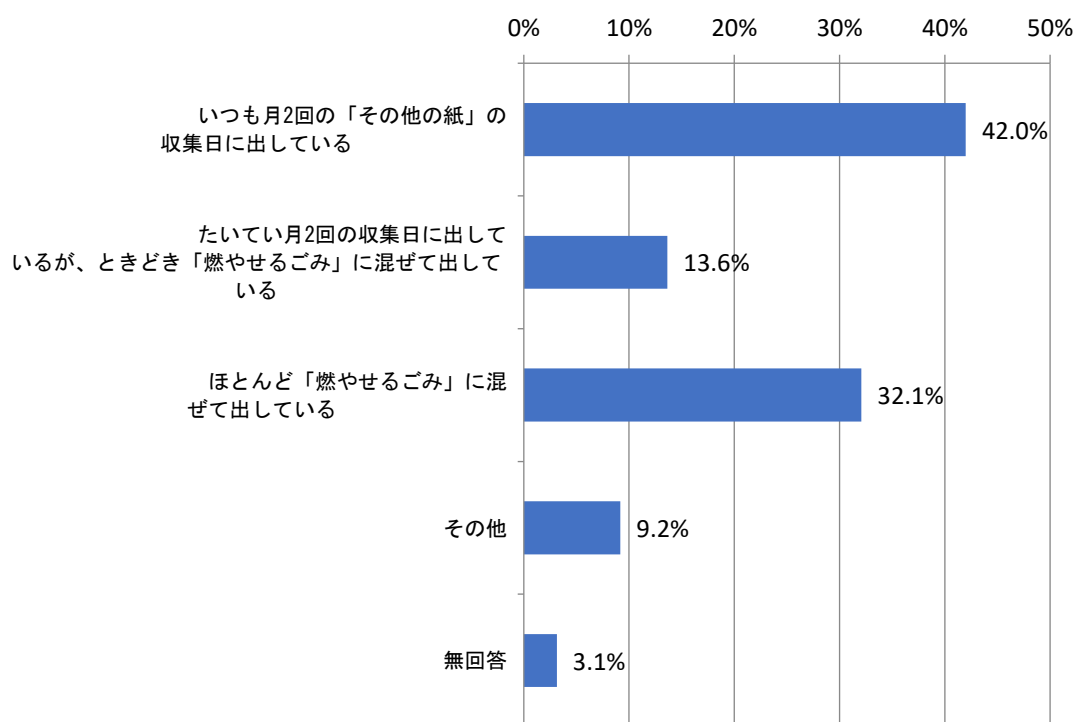
（その他内訳）

回収業者/出していない/リサイクルモア/自分で焼却処理/再利用

問10-③ その他の紙

「いつも月2回の「その他の紙」の収集日に出している」が42.0%と最も多く、次に「ほとんど燃やせるごみに混ぜて出している」が32.1%と続きました。その他の意見として、スーパー等の民間回収や地域の再生資源回収運動に出しているという意見が多くみられました。

全体で見ると半数ほどがリサイクルに出している傾向があるものの、4割は燃やせるごみに混ぜて出しており、雑がみ同様に分別がわかりにくいことが影響したためと考えられます。

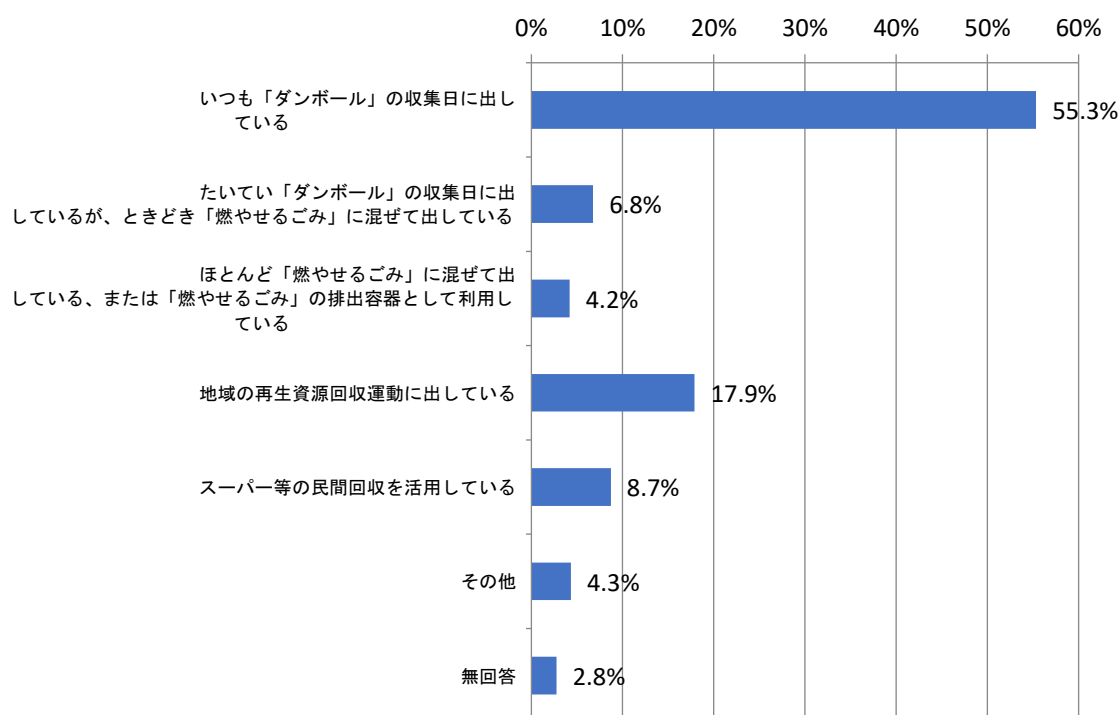


(その他内訳)

スーパー等の民間回収/地域の再生資源回収/回収業者/自分で焼却処理/
リサイクルモア/回収ステーション/雑がみと混ぜている/再利用

問10-④ ダンボール

「いつも「ダンボール」の収集日に出している」が55.3%と最も多く、アンケートの回答者の半数以上が収集日に出していることがわかります。また、「ほとんど「燃やせるごみ」に混ぜて出している、または「燃やせるごみ」の排出容器として利用している」が4.2%でした。



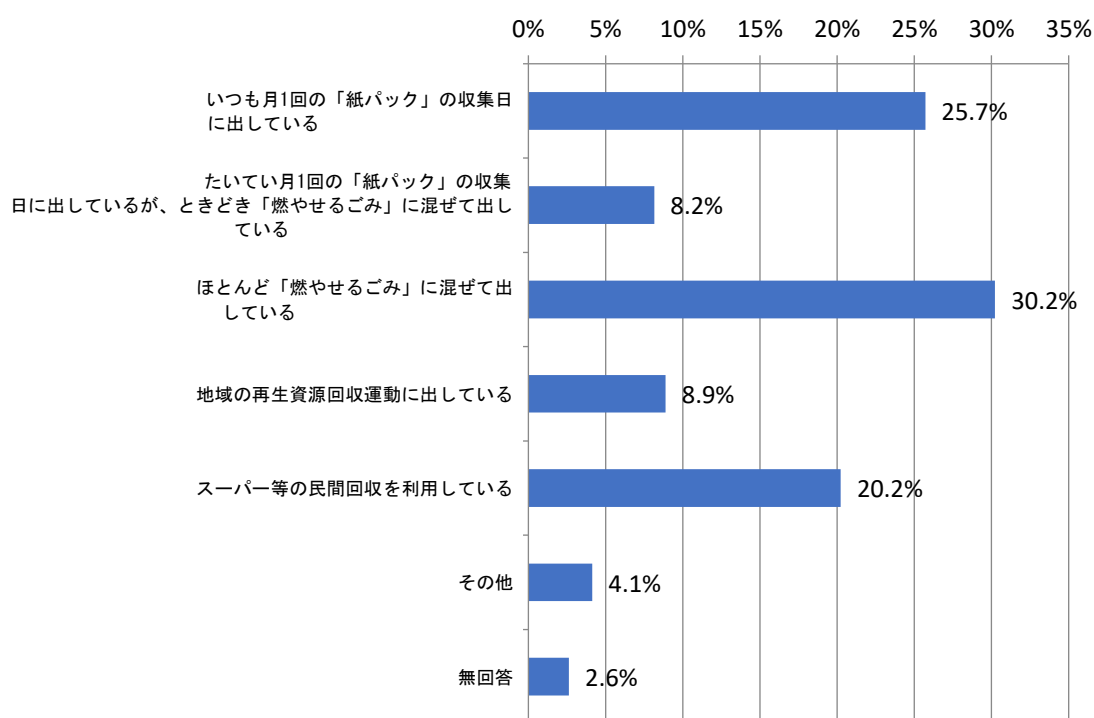
(その他内訳)

回収業者/リサイクルモア/自分で焼却処理/回収ステーション/
施設で回収/古紙リサイクルセンター/再利用

問10-⑤ 紙パック

「ほとんど「燃やせるごみ」に混ぜて出している」が30.2%と最も多かったものの、「いつも月1回の「紙パック」の収集日に出している」「地域の再生資源回収運動に出している」「スーパー等の民間回収を利用している」を合わせると54.8%となり、その他の意見としても回収業者や回収ステーションの利用が多くみられ、アンケートの回答者の半数以上はリサイクルに出していることがわかります。

また、まな板がわりに使用している、との再利用している意見も見られました。「燃やせるごみ」に混ぜて出している理由としては、少量であることとの意見が多くみられました。



(その他内訳)

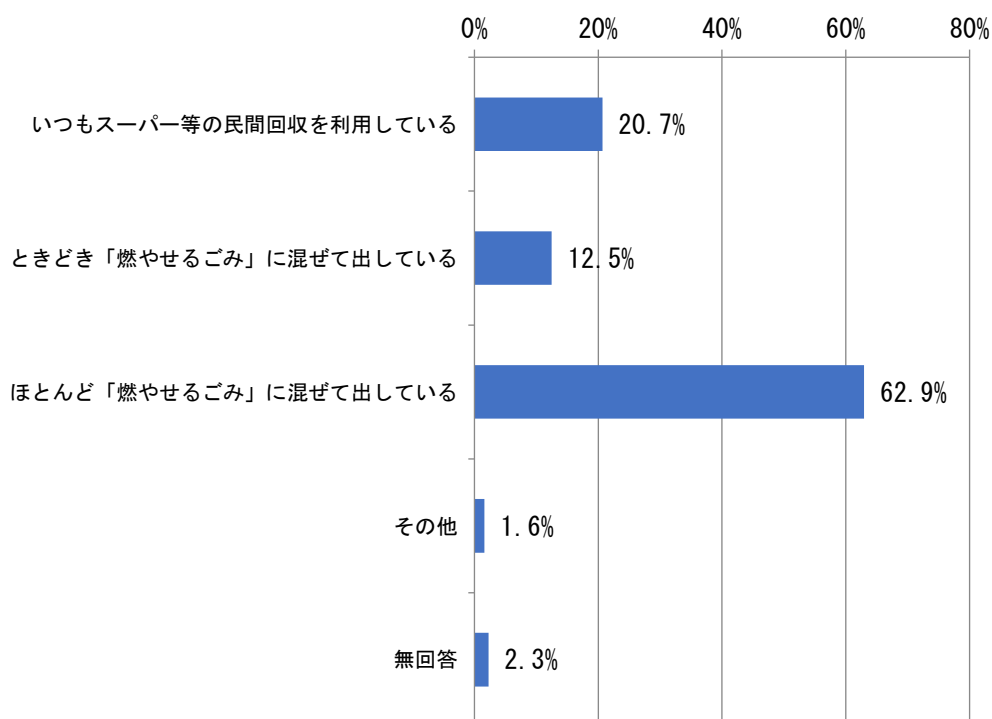
買わない/再利用/回収業者/自分で焼却処理/リサイクルモア/

あまりでないので燃やせないゴミとして出している/回収ステーション

問10-⑥ 白色トレイ、透明容器・フタなど

「ほとんど「燃やせるごみ」に混ぜて出している」が62.9%と6割を超えており、その理由として市の分別項目に白色トレイ、透明容器・フタなどプラスチック製品を設けていなく、燃やせるごみに出していいことになっているから、との意見が多くみられました。

また、「いつもスーパー等の民間回収を利用している」は20.7%いたものの、その他の意見に多くみられたのは、スーパーでは白色トレイのみの取り扱いで、透明容器・フタなどを回収していないことや、燃やせるごみの収集日に出しているものの、白色トレイ、透明容器・フタなどのごみを、通常の燃やせるごみと分けて出している、との意見もありました。



(その他内訳)

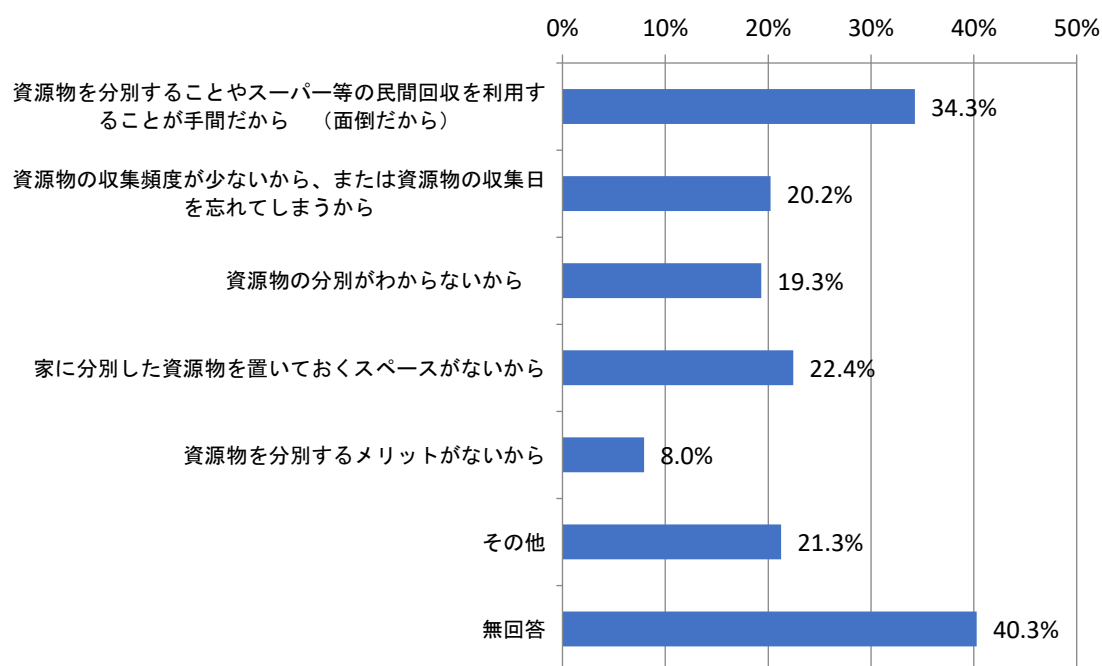
回収業者/燃やせるゴミの日別に分けて出す/

白色トレイはスーパー等へ、その他は燃やせるごみへ/自分で焼却処理/

利用していない

問 1 1. 資源物等を燃やせるごみとして排出する理由

問 10①～⑥に対し、いずれか1つでも「ときどき、またはほとんど「燃やせるごみ」に混ぜて出している」と回答した方に、理由について聞いたところ、「資源物を分別することやスーパー等の民間回収を利用することが手間だから（面倒だから）」が 34.3%と最も多く、次いで「家に分別した資源物を置いておくスペースがないから」が 22.4%でした。

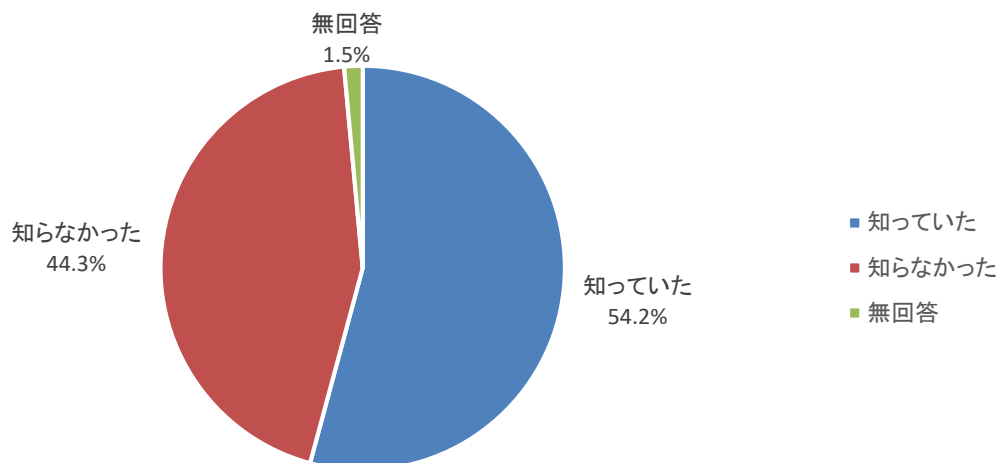


（その他内訳）

（プラスチック、トレイ）収集日がない、市の分別表に沿っているから/
少量のため/汚れ・臭いが強いものは燃やせるごみにしている/
個人情報載っているから/再利用/細かくして燃えるごみに出している

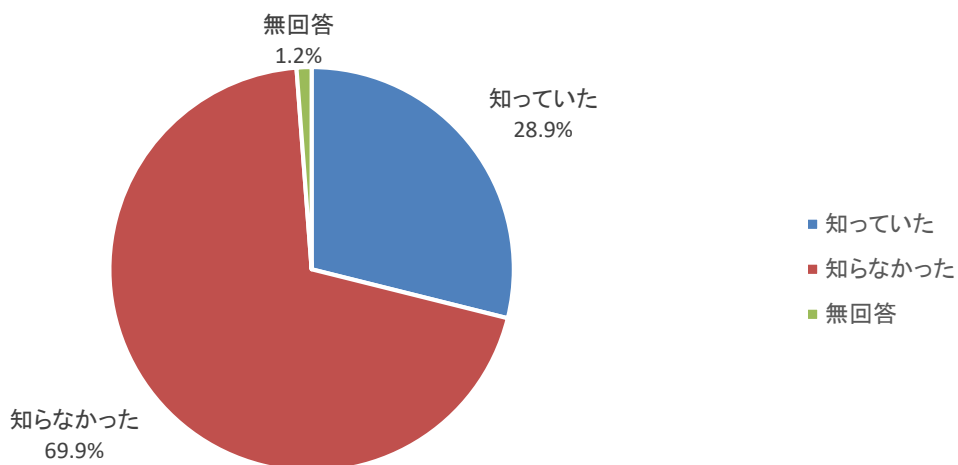
問 1 2. 弘前市のごみ排出量について

アンケートの回答者に弘前市の家庭から出るごみ排出量が全国及び青森県内と比較して多いことを知っているかどうか聞いたところ、「知っていた」が 54.2%、「知らなかった」が 44.3%で、半数以上は知っていることがわかりました。



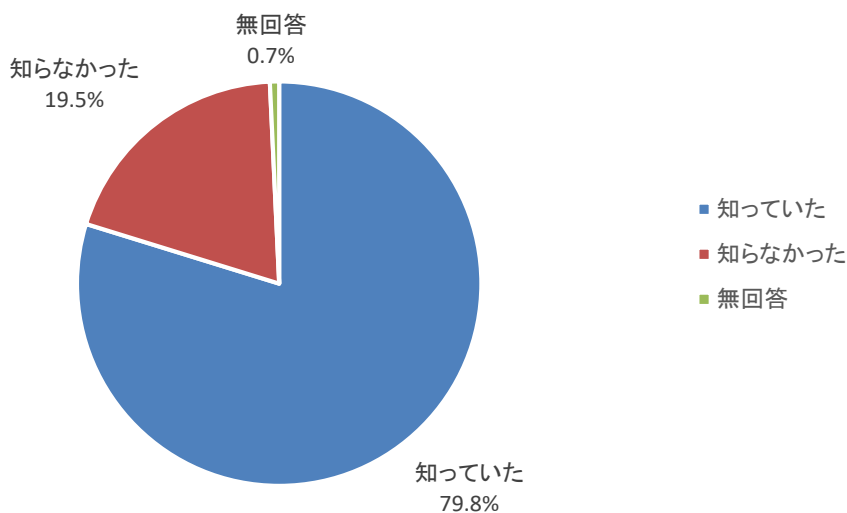
問 1 3. 弘前市のごみ削減目標について

アンケートの回答者に弘前市の家庭から出るごみの削減目標について聞いたところ、「知らなかった」が 69.9%、「知っていた」が 28.9%でした。知らなかった割合が約 7 割と低いことから、市民への意識付けを高めるためにも周知・広報活動が求められます。



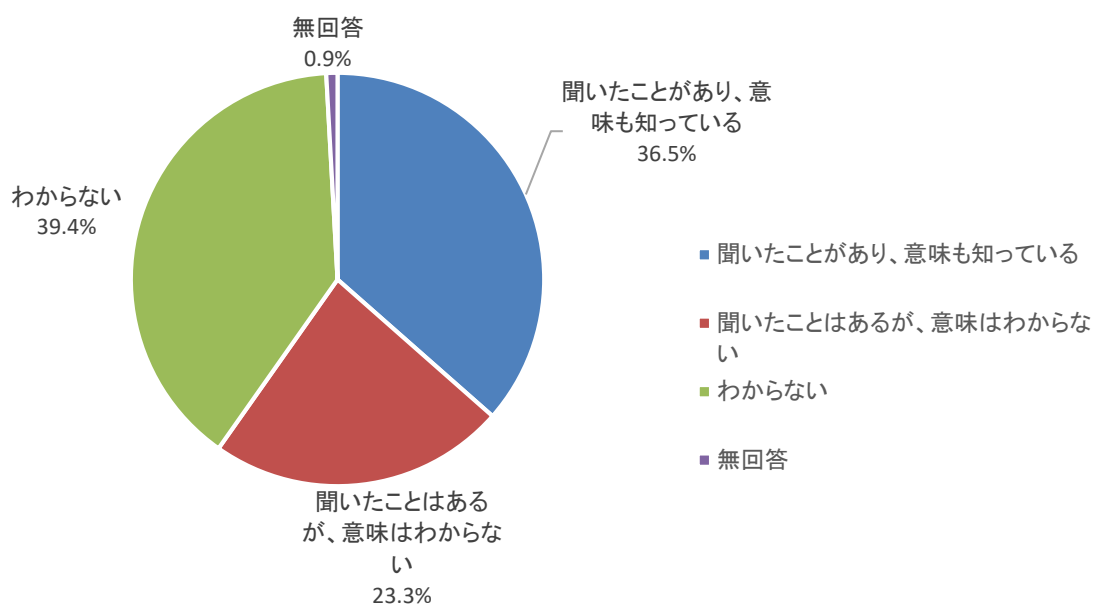
問14. ごみ処理経費について

アンケートの回答者に、弘前市のごみ処理経費について聞いたところ、多額の税金がかかっていることを「知っていた」が79.8%でした。約8割の方が知っていることがわかり、関心が高いことがわかります。



問15. 「3R (スリーアール)」について

アンケートの回答者に、「3R (スリーアール)」の意味について聞いたところ、最も多かった回答が「わからない」で39.4%、「聞いたことがあり、意味も知っている」は36.5%でした。「3R (スリーアール)」という言葉自体は、約6割が聞いたことがあるとの回答がありました。



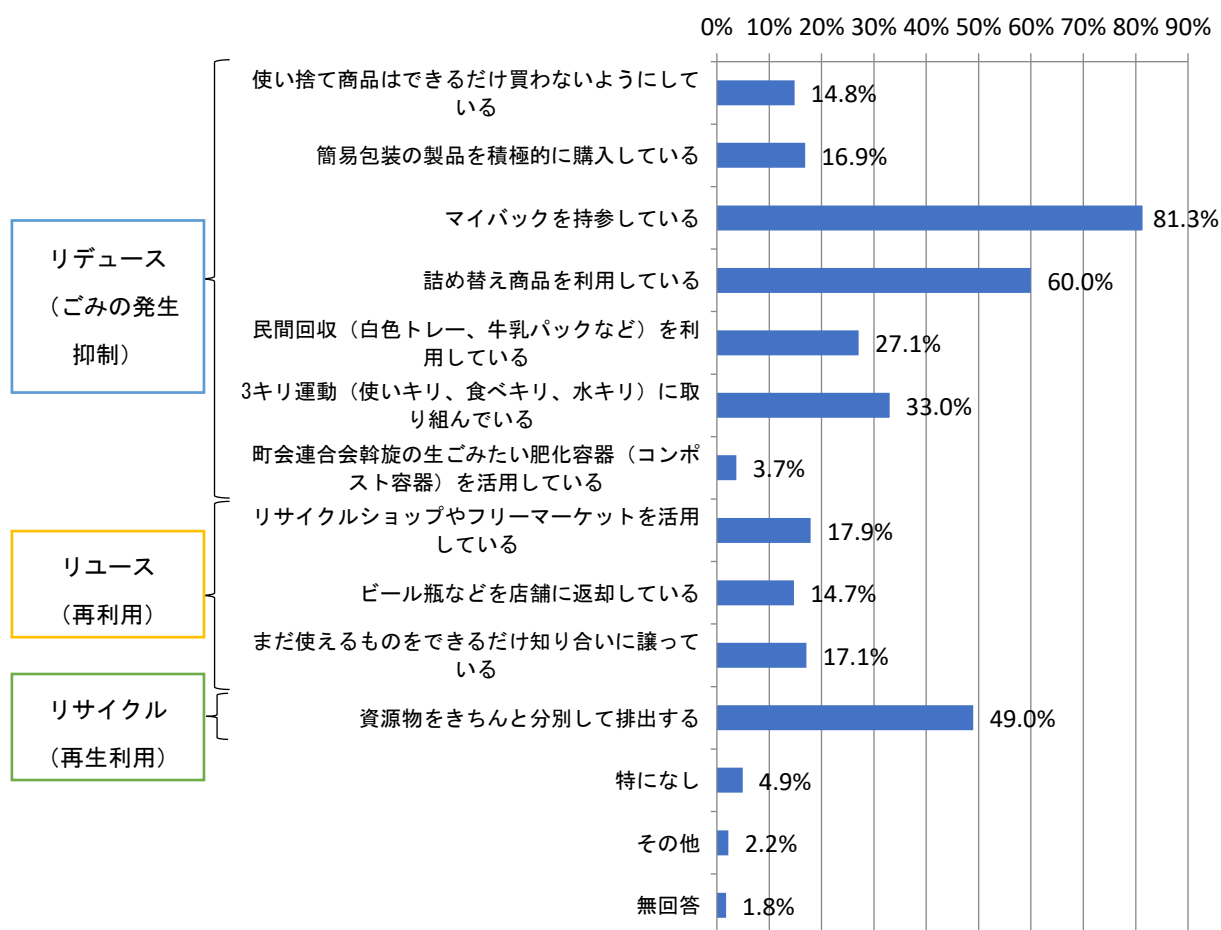
Ⅲ. 3R（リデュース、リユース、リサイクル）について

問16. 3R（リデュース、リユース、リサイクル）への取組みについて

アンケートの回答者に、3R（リデュース、リユース、リサイクル）への取組みとして日頃行っているものを聞いたところ、「マイバックを持参している」が81.3%と最も多く、スーパーのレジ袋有料化の影響を受けているものと考えられます。次に多かったのが「詰め替え商品を利用している」が60.0%でした。

3R（リデュース、リユース、リサイクル）の観点からみると、リデュース（ごみの発生抑制）への取組みは平均して全体の約33.8%、リユース（再利用）への取組みは平均して全体の16.5%で、リサイクル（再生利用）への取組みは49.0%でした。リユースに関しては、まだ使えるものがたくさんあるが、受け入れ先がわからない、といった意見もありました。

その他の意見として、リデュースへの取組みとしては生ごみを出さないように食品を使い切ること、生ごみ処理機の利用することなどがあげられ、リユースの取組みとしては衣類回収ボックスの利用などがありました。また、リサイクルの取組みとしては地域の再生資源回収の利用、リサイクルモアの利用がありました。



(その他内訳)

・リデュース（ごみの発生抑制）の取り組み

生ゴミは出さない・自宅で処理/財布にレジ袋を入れておき繰り返し使う/
生ごみ処理機を利用している/包装を断る

・リユース（再利用）の取り組み

衣類回収ボックスを利用/不用品を寄付する/職場で再利用/
メルカリを利用

・リサイクル（再生利用）の取り組み

地域の再生資源回収を利用/リサイクルモアを利用

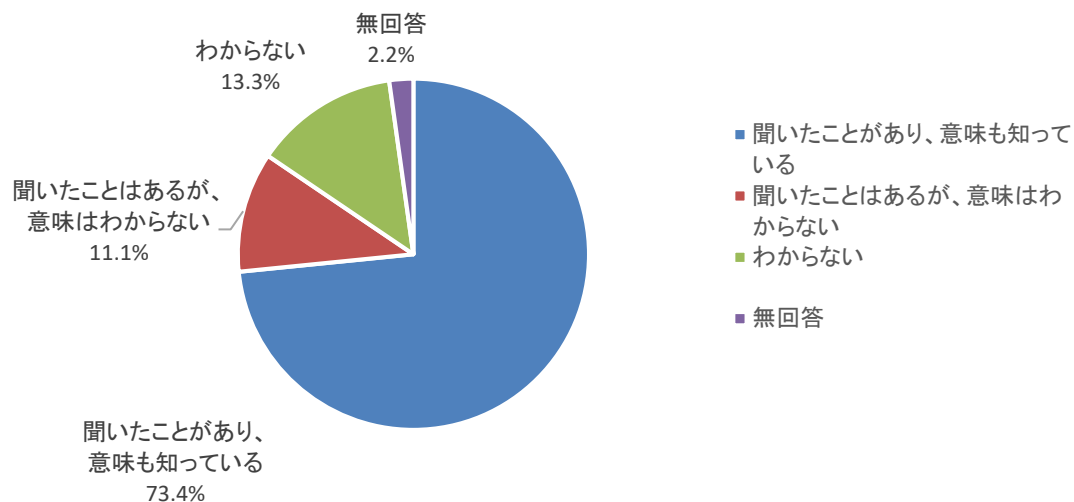
・その他

受け入れ先がわからない/高齢者は昔の習慣が根強い

(1) リデュース（ごみの発生抑制）について

問17. 食品ロス

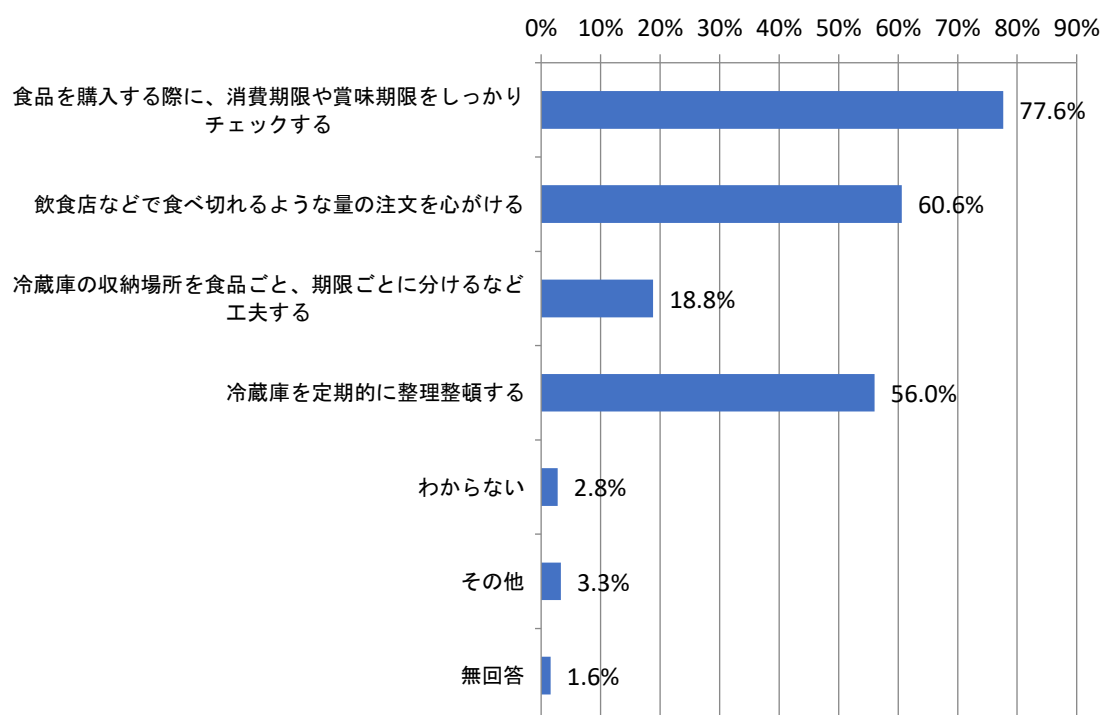
アンケートの回答者に、食品ロスについて聞いたところ、「聞いたことがあり、意味も知っている」が73.4%と、7割以上が知っているとの回答がありました。



問18. 食品ロスへの対策

アンケートの回答者に、「食品ロス」への対策として、実施できそうなものについて聞いたところ、「食品を購入する際に、消費期限や賞味期限をしっかりとチェックする」が77.6%と最も多く、続いて「飲食店などで食べ切れるような量の注文を心がける」が60.6%、「冷蔵庫を定期的に整理整頓する」が56.0%でした。

その他の意見としては、余分な食品をストックしない、食べ切れる分を買う、という意見を多くいただきました。

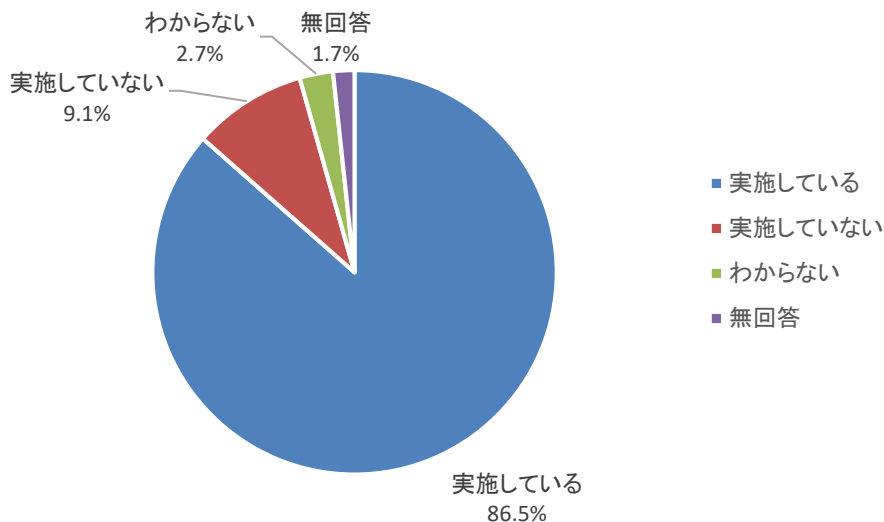


(その他内訳)

一度に多くを買わない、食べ切れる分を買う/食品ロスは(ほとんど)していない、食べ切る/余分な食品をストックしない/賞味期限切れのものでも食べられるものは食べている/消費する日に合わせて消費期限の短いものを購入する

問19. 生ごみの水キリ

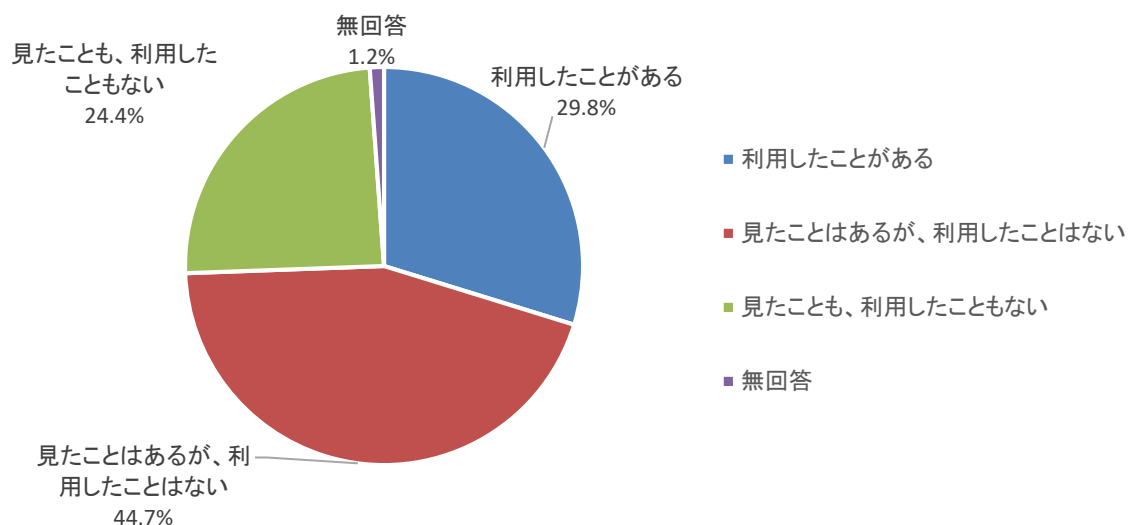
アンケートの回答者に、生ごみの水キリについて聞いたところ、「実施している」が86.5%と、多くの方が実施している一方で、まだ1割ほど「実施していない」との回答がありました。弘前市の家庭系ごみの排出量の減量を推進するためにも、生ごみの水キリによって、家庭系ごみの排出量の減量につながることを周知していく活動がまだまだ必要であると思われます。



(2) リユース（再利用）について

問20. 衣類回収ボックス

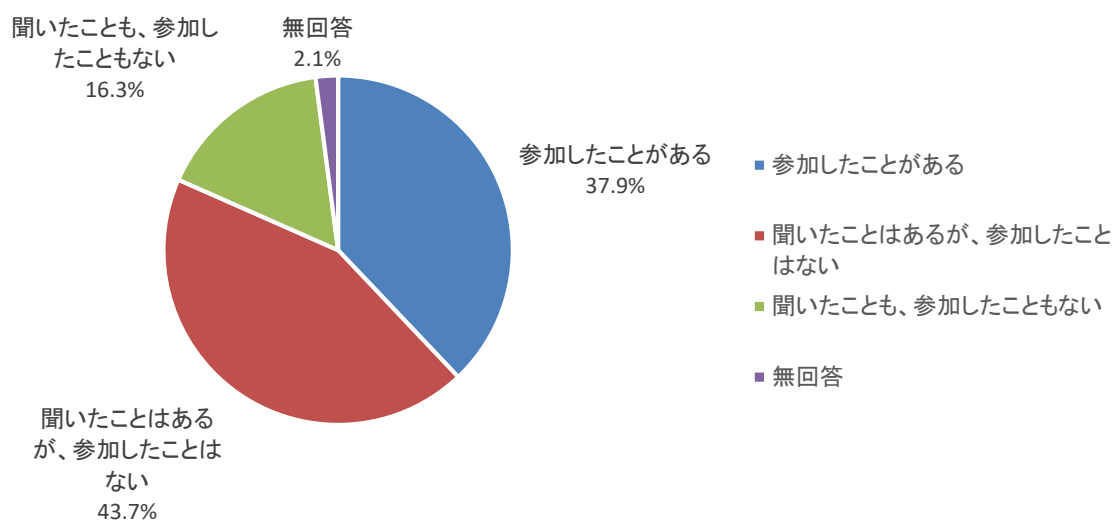
アンケートの回答者に、弘前市が市内10か所に設置している衣類回収ボックスについて聞いたところ、「利用したことがある」は29.8%で、「見たことはあるが、利用したことはない」が44.7%と最も多く、「見たことも、利用したこともない」と回答した方と合わせると約7割の方が利用したことがないことがわかりました。



(3) リサイクル（再生利用）について

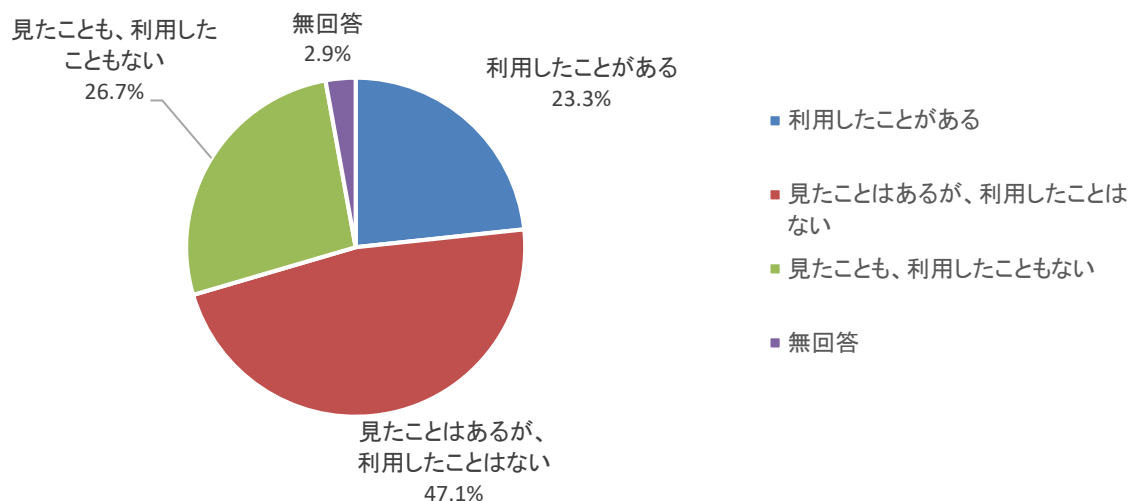
問 2 1. 地域の再生資源回収運動について

アンケートの回答者に、地域の再生資源回収運動について聞いたところ、「参加したことがある」は 37.9%で、「聞いたことはあるが、参加したことはない」が 43.7%と最も多く、「聞いたことも、参加したこともない」と合わせると 6 割が参加したことがない、との回答がありました。



問 2 2. 使用済小型家電回収ボックスについて

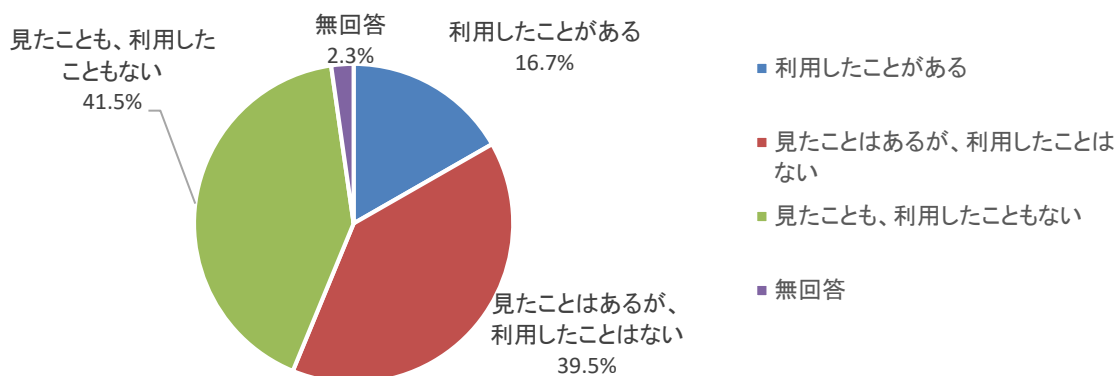
アンケートの回答者に、市内 11 か所に設置している使用済小型家電回収ボックスについて聞いたところ、「利用したことがある」は 23.3%で、「見たことはあるが、利用したことはない」が 47.1%と最も多く、「見たことも、利用したこともない」と合わせると 7 割以上が利用したことがない、との回答がありました。



問 2 3. 新聞・雑がみ類回収ステーションについて

アンケートの回答者に、市内 5 か所に設置している新聞・雑がみ類回収ステーションについて聞いたところ、「利用したことがある」は 16.7%で、「見たことも、利用したこともない」が 41.5%と最も多く、「見たことはあるが、利用したことはない」と合わせると 8 割以上が利用したことがない、との回答がありました。

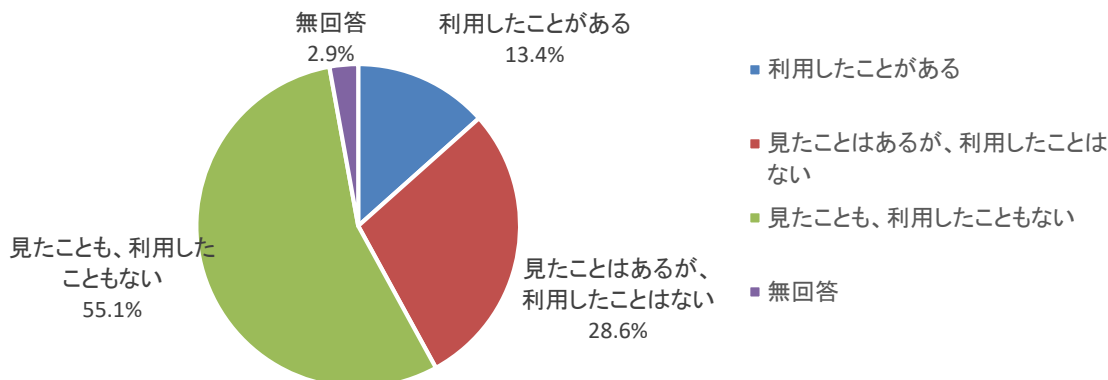
新聞・雑がみ類回収ステーションの利用が少ないことに関しては、問 1 0-①、②において新聞・雑がみ類は地域の再生資源回収運動や収集日に出しているとの回答が多かったことも影響していると考えられます。



問 2 4. 古紙リサイクルセンターについて

アンケートの回答者に、県・市・古紙回収業者が連携し市内 3 か所に設置している古紙リサイクルセンターについて聞いたところ、「利用したことがある」は 13.4%で、「見たことも、利用したこともない」が 55.1%と最も多く、「見たことはあるが、利用したことはない」と合わせると 8 割以上が利用したことがない、との回答がありました。

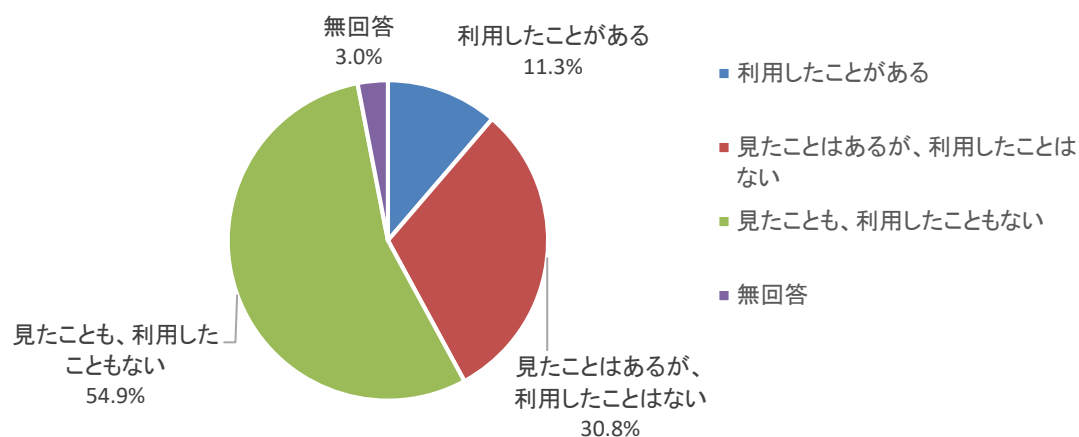
古紙リサイクルセンターの利用が少ないことに関しては、問 1 0-①、②、④、⑤において新聞、雑誌・雑がみ類、ダンボール、紙パックは地域の再生資源回収運動や収集日に出しているとの回答が多かったことも影響していると考えられます。また、半数以上が「見たことも、利用したこともない」と回答していることから、周知が足りていない面も考えられます。



問25. 古紙リサイクルエコステーションについて

アンケートの回答者に、事業者・民間団体等が市内5か所に設置している古紙リサイクルエコステーションについて聞いたところ、「利用したことがある」は11.3%で、「見たことも、利用したこともない」が54.9%と最も多く、「見たことはあるが、利用したことはない」と合わせると8割以上が利用したことがない、との回答がありました。

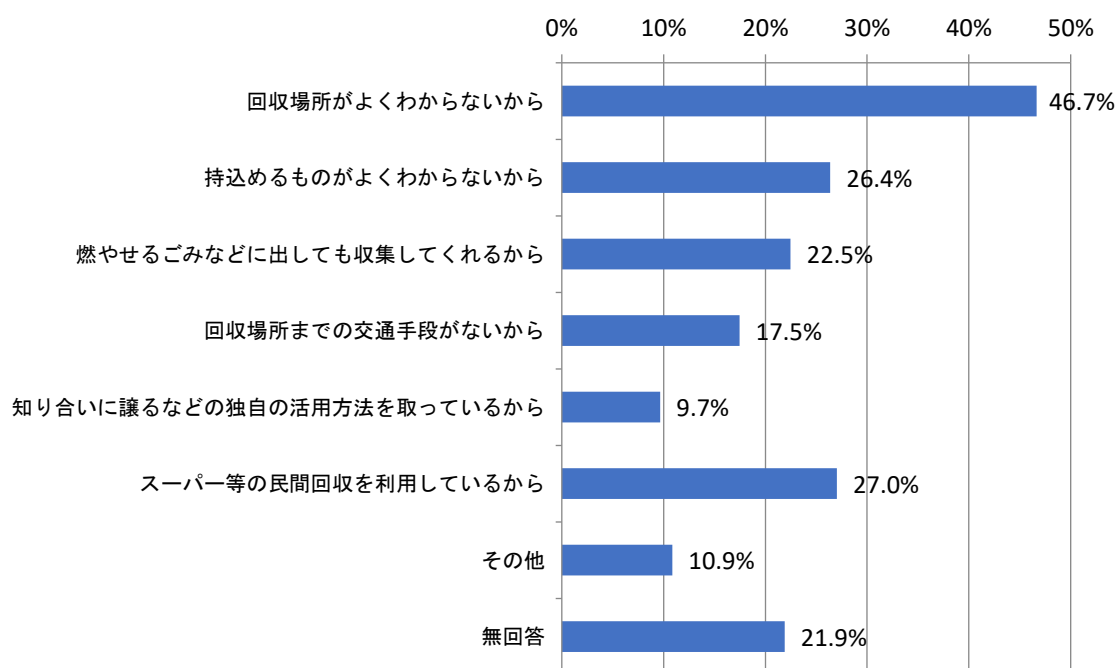
古紙リサイクルエコステーションの利用が少ないことに関しては、問10-①、②、④において新聞、雑誌・雑がみ類、ダンボールは地域の再生資源回収運動や収集日に出しているとの回答が多かったことも影響していると考えられます。また、半数以上が「見たことも、利用したこともない」と回答していることから、周知が足りていない面も考えられます。



問26. 衣類回収ボックス、使用済小型家電回収ボックス、新聞・雑がみ類回収ステーション、古紙リサイクルセンター、古紙リサイクルエコステーションを「利用したことがない」理由

アンケートの回答者に、問20～問25のいずれかにおいて「利用したことがない」理由を聞いたところ、最も多かった意見は「回収場所がよくわからないから」が46.7%でした。「持込めるものがよくわからないから」も26.4%が回答し、資源ごみの収集日以外の回収場所について周知の必要があると考えられます。

「スーパー等の民間回収を利用しているから」(27.0%)や、その他の意見のなかにも地域の再生資源回収を利用している、業者が回収しているから、など別の方法で資源ごみの回収に努めている意見もありました。



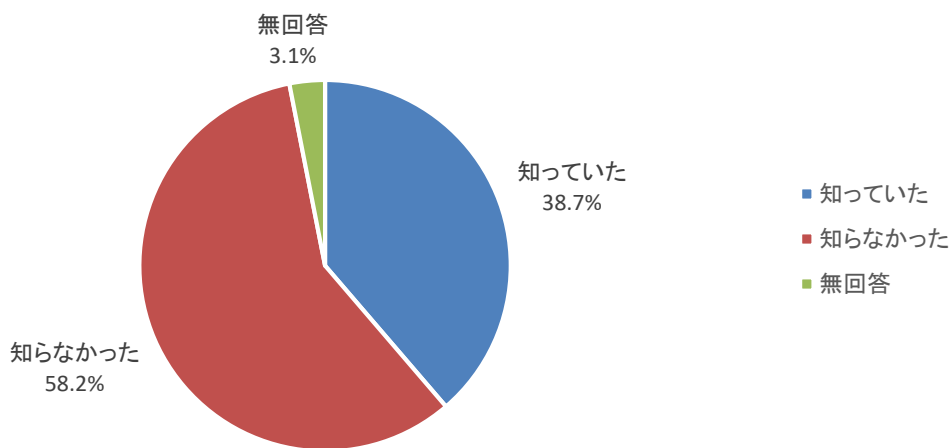
(その他内訳)

地域の再生資源回収を利用しているから/業者が回収しているから/回収場所まで遠いから/持っていくのが面倒・時間がない/市の資源ごみ回収日に出している/少量のため・出す必要がないため/今後利用したい/家族にまかせている/周知不足

(4) その他

問27. 家庭から出るごみの内訳について

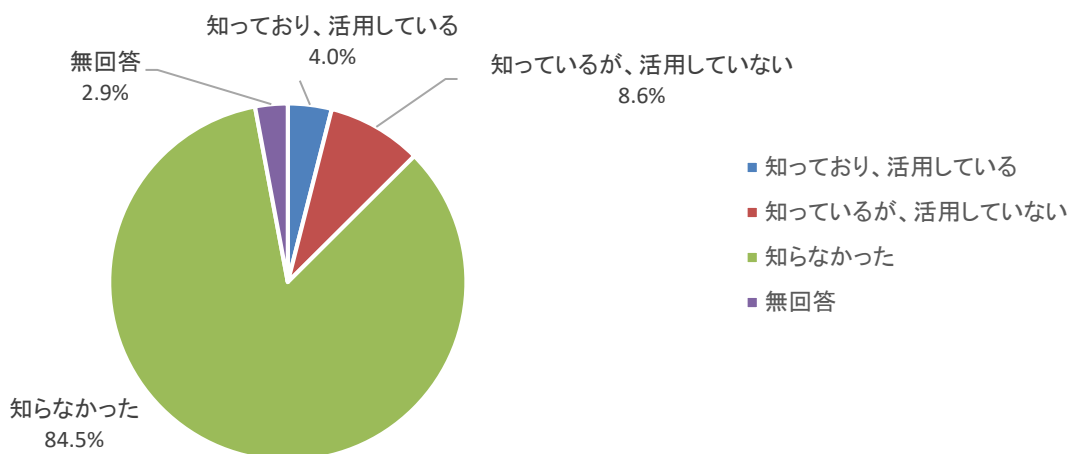
アンケートの回答者に、弘前市のごみの量が多い要因が生ごみであることについて聞いたところ、「知っていた」が38.7%、「知らなかった」が58.2%で、知っているを上回りました。問19の生ごみの水キリを含め、市民に生ごみの量の削減がごみ排出量の減少につながる面を周知・啓発していく必要があります。



問28. 弘前市のごみ収集アプリについて

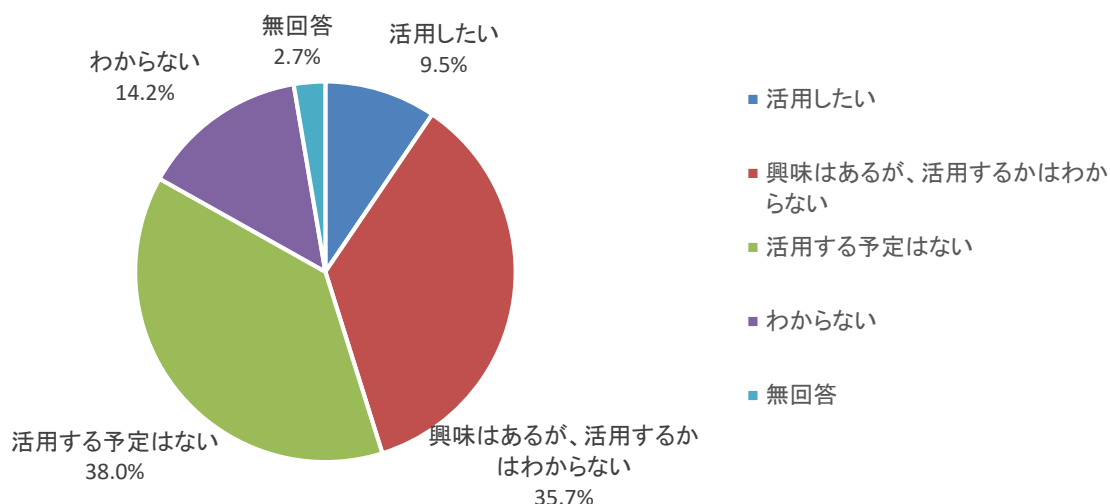
アンケートの回答者に、弘前市のごみ収集アプリについて聞いたところ、「知らなかった」が84.5%と最も多く、「知っており、活用している」は全体の4.0%という結果でした。ごみ収集アプリの存在についてもっと周知をしていく必要があります。

アンケートの回答者に高齢者の割合が多いためか、アプリが利用できるスマートフォンを持っていないという意見も多くみられました。



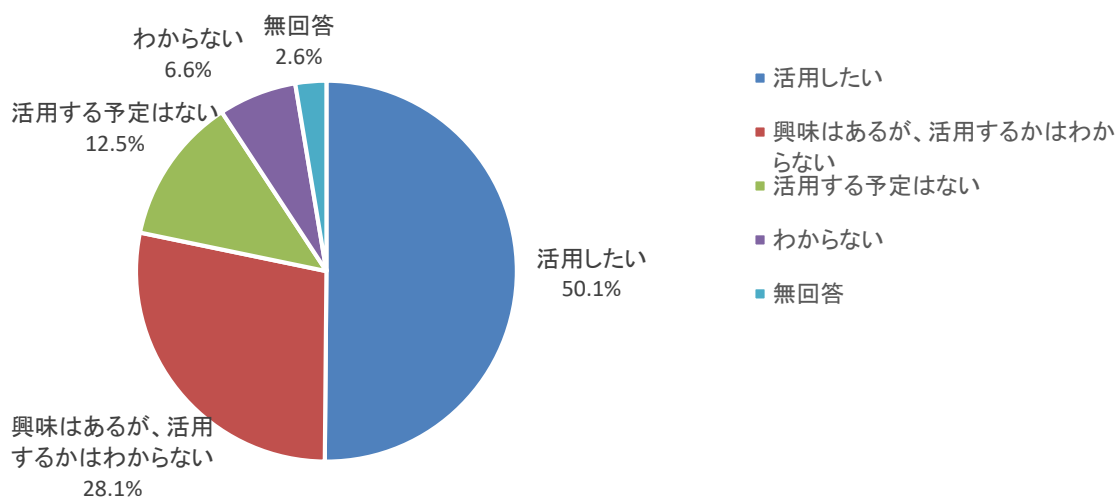
問 29. 電動式の生ごみ処理機購入費の補助制度について

アンケートの回答者に、生ごみ処理機の購入費の補助制度について聞いたところ、「活用する予定はない」が 38.0%と最も多く、次に「興味はあるが、活用するかはわからない」が 35.7%、「活用したい」と回答したのは全体の 9.5%でした。



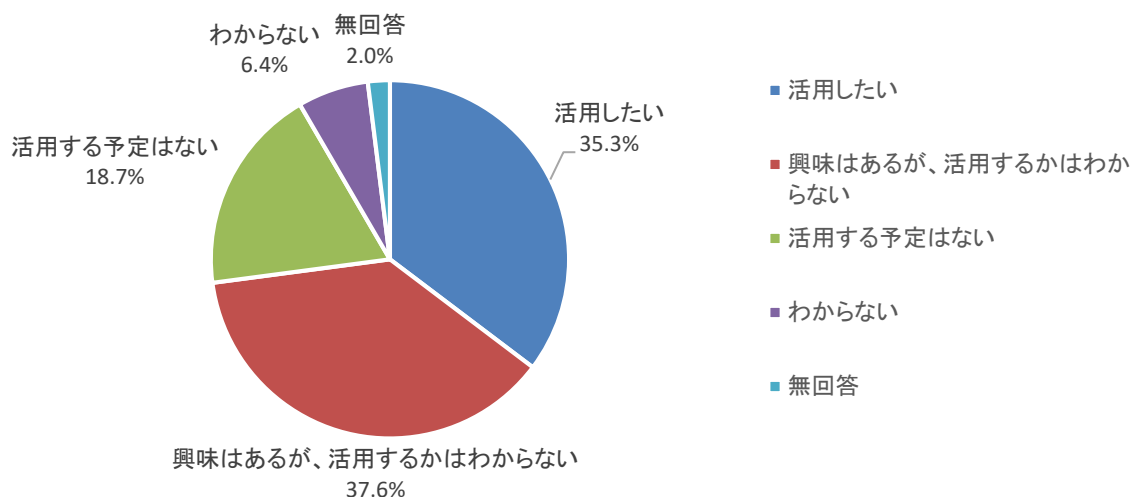
問 30. ごみ分別の冊子型ガイドブックについて

アンケートの回答者に、ごみ分別の冊子型ガイドブックについて聞いたところ、「活用したい」が 50.1%と、半数以上が活用したいとの回答がありました。回答者の中には、冊子型ではなく、ウェブ上やアプリで活用したいといった意見もありました。



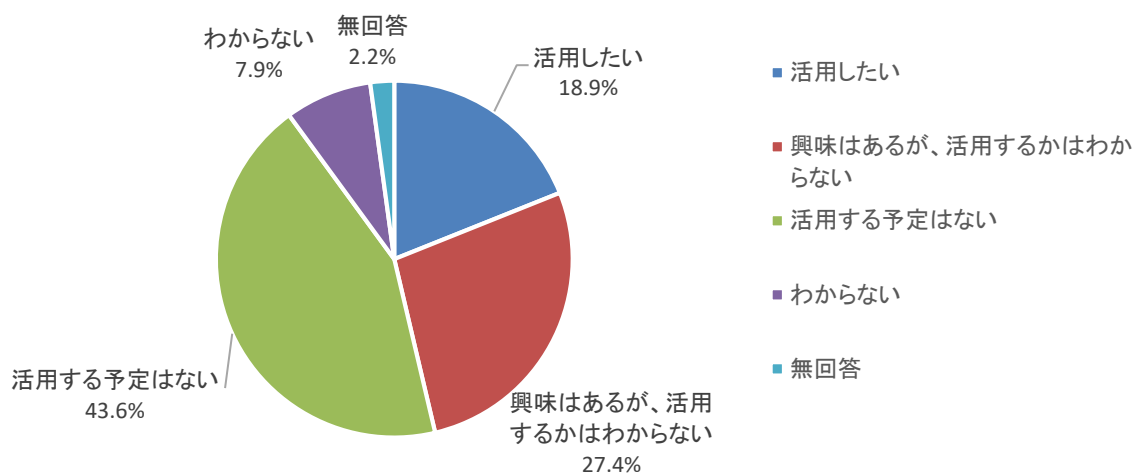
問3 1. 大型ごみを再生家具として販売する取組みについて

アンケートの回答者に、大型ごみを再生家具として販売する取組みについて聞いたところ、「興味はあるが、活用するかはわからない」が37.6%で最も多かったものの、「活用したい」が35.3%と、「活用する予定はない」を上回る結果となりました。



問3 2. 電動破砕機の無料貸し出しの制度について

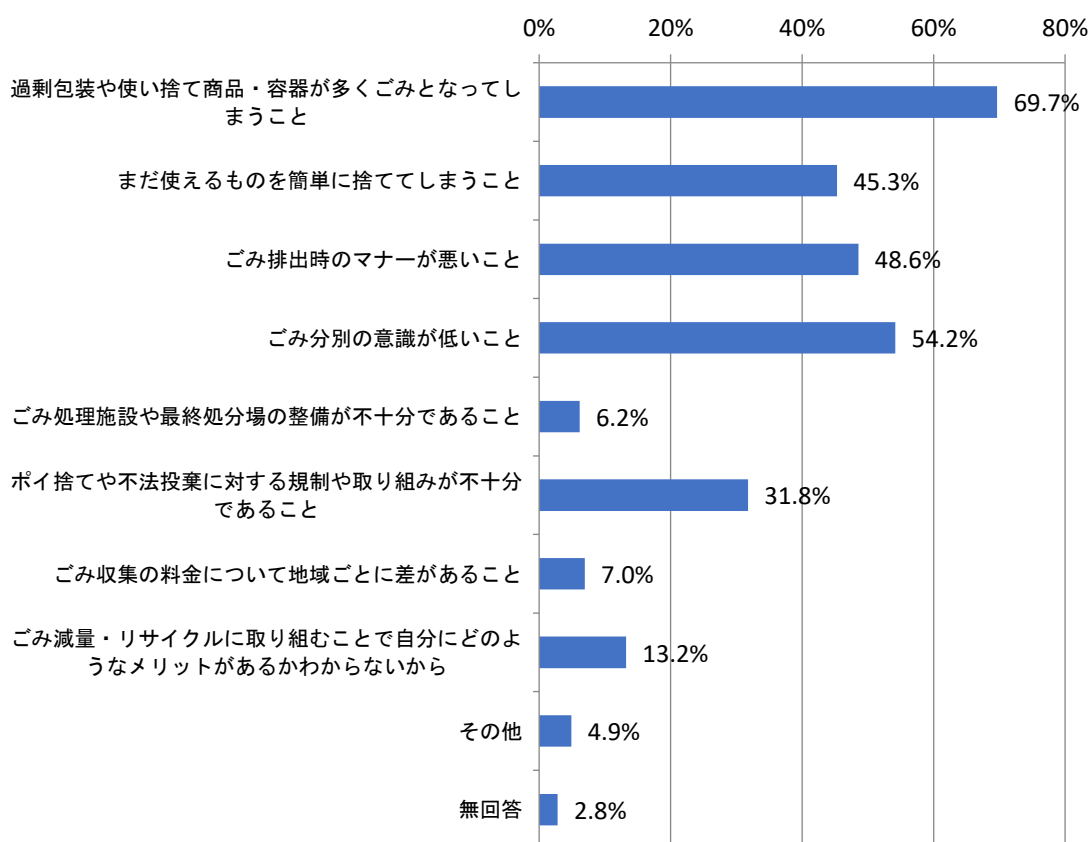
アンケートの回答者に、家庭から出た剪定枝をチップ状にする電動破砕機の無料貸し出し制度について聞いたところ、「活用する予定はない」が43.6%と最も多い結果となりました。そもそも剪定枝が出ることがない、といった意見も見られたことから、それぞれの環境によって異なるものと考えられます。なお、「活用したい」との意見は18.9%でした。



問33. ごみ問題に関する課題

アンケートの回答者に、ごみ問題に関してどのような課題があるかと考えるかを聞いたところ、「過剰包装や使い捨て商品・容器が多くごみになってしまうこと」が69.7%と最も多く、次いで「ごみ分別の意識が低いこと」が54.2%、「ごみ排出時のマナーが悪いこと」が48.6%。「まだ使えるものを簡単に捨ててしまうこと」が45.3%でした。

その他の意見として、弘前市の対策の認知度が低いなどの市の取組みへの意見や、リサイクルの活用法に対する意見、ごみの収集場所・カラス対策・分別に対する意見等がありました。



(その他内訳)

・市の取組について

ごみ収集してくれることへの感謝の心がたりない/不法投棄に対して処分があまい/
周知不足/減量の意識を持たせるためには有料化が大事/ごみ袋の有料化反対

・リサイクルの活用法について

メリットが少ない/リサイクルについての周知不足

・ごみの収集場所について

回収日をふやしてほしい/ポイ捨てが多い/区域外の人が捨てていくこと

・カラス対策について

カラスに荒らされて大変

・ごみの分別について

細かく分別しない方が良い/ダンボール詰め等の中身の見えないものは回収しない/
より詳しい分別方法の周知

・モラルや意識について

モラル・意識の向上/環境教育をする/
ポイ捨てる子供がいるので、大人がしっかりする

・アパート住民のマナーについて

町会に入っていないアパートの人の出し方が悪い/学生の出し方が悪い

・高齢化による課題について

高齢者の意識が低く、いらぬものはごみとして捨てていると感じる/
高齢化が進むにつれて分別は難しくなると思う

・時代・環境の変化について

ライフスタイルの変化/物が豊富で手軽に買えるから

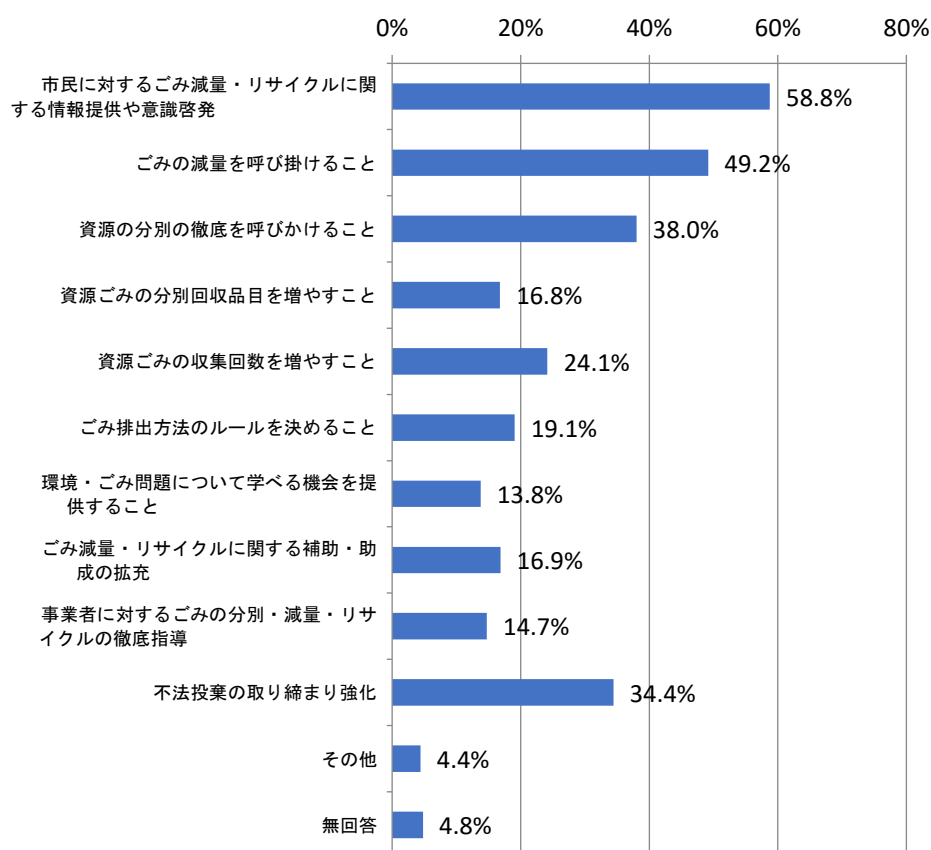
・その他

チラシ類が多い/メーカーの売り方も問題/袋に名前をつける

問34. ごみ減量やリサイクルを進めていくうえで重要な事項

アンケートの回答者に、ごみ減量やリサイクルを進めていくうえで重要な事項について聞いたところ、最も多かった意見が「市民に対するごみ減量・リサイクルに関する情報提供や意識啓発」で 58.8%、次に「ごみの減量を呼び掛けること（食品ロスを減らす、水キリを行うなど）」が 49.2%、「資源の分別の徹底を呼びかけること」が 38.0%、「不法投棄の取り締まり強化」が 34.4%でした。

その他の意見としては、ごみの分別・収集についての意見、市民のモラルや意識向上についての意見、市の取組についての意見、ごみ袋有料化、指定袋についての意見、スーパー・メーカーなど企業努力についての意見などがありました。



(その他内訳)

・ごみの分別・収集について

分別がわかりづらい/分別をわかりやすくしてほしい/毎戸収集にする

・市民のモラルや意識向上について

いくらルールを決めてもやる人はやる。やらない人はしない/個人の意識の問題/
子供のころからの教育

・市の取組について

ごみ減量のメリットを周知する/年間にかかる費用を周知する/
市によるリユースの仕組みがほぼない

・ごみ袋有料化、指定袋について

ごみ袋を有料化する/ごみを捨てるのにお金がかかるということを意識させる/
指定袋制度をする/有料化をしない

・スーパー、メーカーなど企業努力について

過剰包装をしないようにする/事業所からのごみを一般のごみに出さないようにさせる/
スーパー等に回収場所を増やす

・現状で良い

ごみ分別開始当初、数種類もの分け方によってその分のゴミ箱を購入し、結局は無駄にな
った。現在の分別種類が適当である/現状で良い/今のままで良い

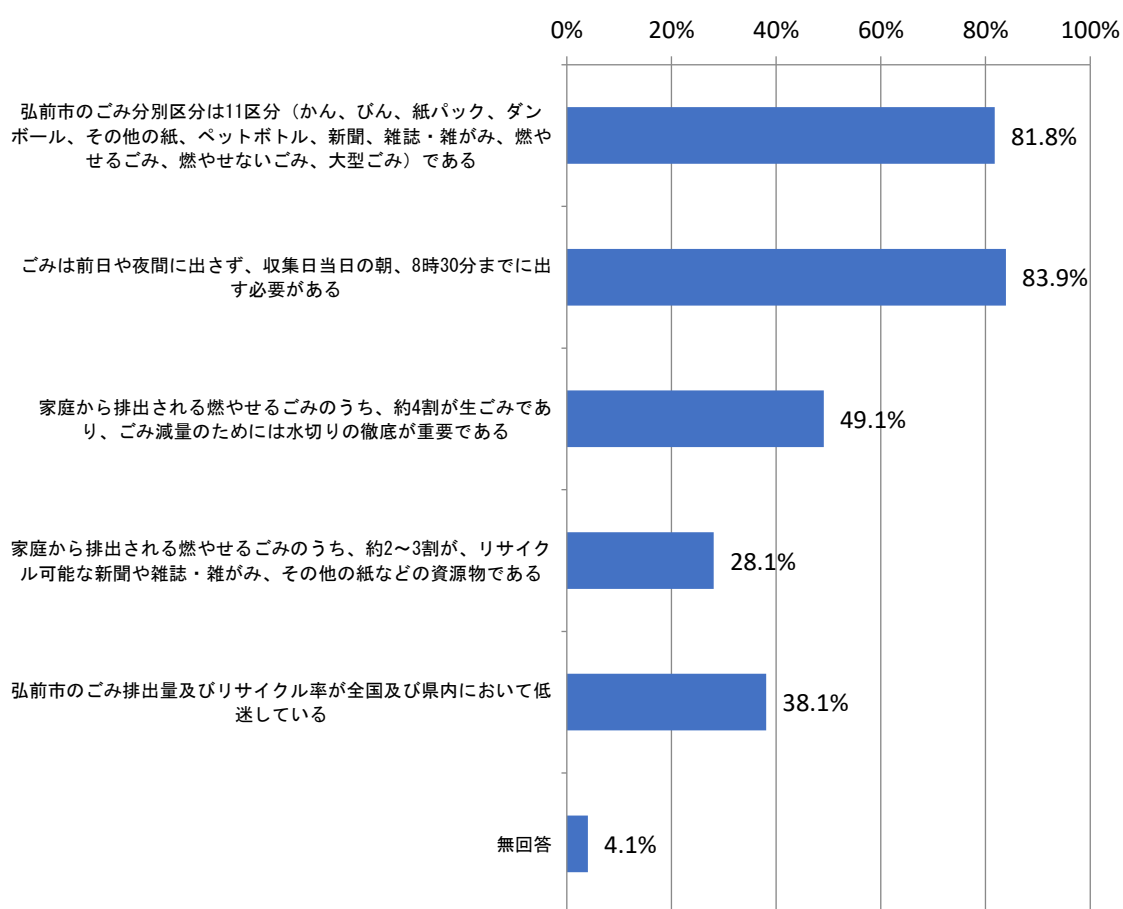
・その他

現状で良い/他地区からの不適正排出者を調べる/国の施策が重要

問35. 弘前市のごみ排出・リサイクルの現状の認知度

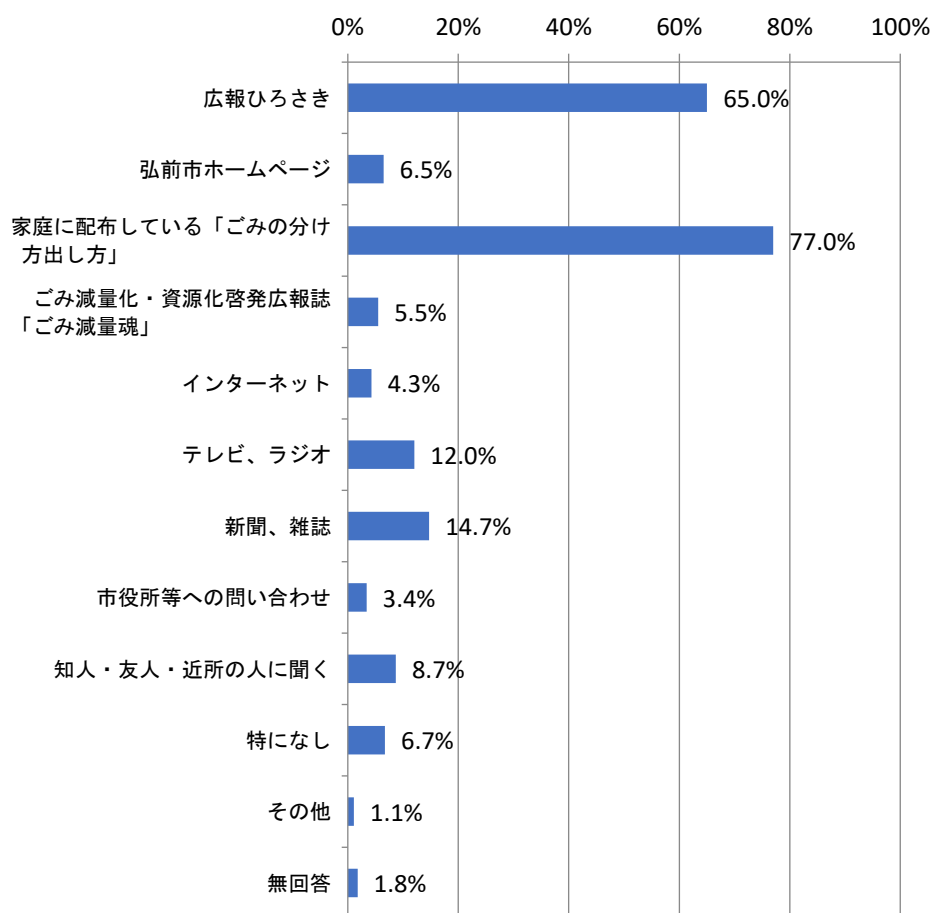
アンケートの回答者に、弘前市のごみ排出・リサイクルの現状について知っているものを聞いたところ、「弘前市のごみ分別区分は11区分である」「ごみは前日や夜間に出さず、収集日当日の朝、8時30分までに出す必要がある」は8割を超える回答があったのに対し、「家庭から排出される燃やせるごみのうち、約2～3割が、リサイクル可能な新聞や雑誌・雑がみ、その他の紙などの資源物である」は3割弱という結果になりました。

また、「弘前市のごみ排出量及びリサイクル率が全国及び県内において低迷している」に関しても4割弱というという結果となりました。



問36. ごみ減量・リサイクルに関する情報の入手先

アンケートの回答者に、ごみ減量・リサイクルに関する情報の入手先について聞いたところ、「家庭に配布している「ごみの分け方出し方」」が最も多く77.0%でした。次いで「広報ひろさき」で65.0%でした。今回のアンケートでは、弘前市ホームページやインターネットなどの、ウェブでの入手に関しては割合が低く、紙媒体で確認している人の割合が多い結果となりました。



(その他内訳)

CM/アプリ/スーパー/リサイクルモアのチラシ/カルチュアロード

IV. その他（市の施策に対するご意見など）

問37. 自由記述

行政における課題、今後の方向性についてお伺いしたところ、主なご意見として以下が挙げられました。

○行政への要望に関すること

- ・市民への情報提供や意識啓発に努力してほしい（広報・HPなど）。
- ・ごみ出し・分別が困難な高齢者へのサポートがあればよい。
- ・ごみ問題に対してよくやっている町会・地域活動の表彰や周知。
- ・ダンボール出しを認めてほしい。
- ・全体的に規制が緩いのもっと厳しくした方がよい。
- ・事業所に対してもっと指導してほしい。
- ・剪定枝の電動破碎機の貸し出し制度を実現してほしい。
- ・ポイントがもらえるなどのメリットがあれば協力する人が増える。
- ・回収日を増やしてほしい。
- ・プラスチックをまた分別して回収すれば良いのでは。
- ・高齢者は毎戸収集にしてほしい。
- ・大型ごみは集積所まで持っていけないので、自宅前で回収してほしい。
- ・ディスプレイの導入。
- ・過剰包装とならないようメーカーや販売業者に働きかける。
- ・水切り道具を市でも販売してほしい。

○ごみ出しに関すること

- ・夜はカラスの被害がないため、夜間収集をしてほしい。
- ・アルミ缶等持ち去りしている人がいる。
- ・毎戸収集にすれば他人の目もあるのでルールを守るのではないかな。
- ・アパートの人のマナーや分別が悪いと感じる。
- ・ごみを分別するのは場所をとるので大変。
- ・当日以外にごみを出す人が多く、カラスの被害が増えている。
- ・かん・びん・ペットボトルは袋で回収せず、平川市のように回収ボックスを活用してほしい。
- ・県外から来たが、黄色いネットだけのステーションは景観が悪い。
- ・ごみを出す際に名前を明記すれば不適正排出が減るのでは。
- ・アパートに住んでいる学生の出し方が悪い。
- ・ごみ袋に町名、名前を入れる。

○ごみの収集に関すること

- ・集積所が遠い。狭い。
- ・収集している業者の方には感謝している。
- ・業者の負担が減るので毎戸収集は無くした方が良いのでは。

○分別に関すること

- ・ごみの分類が多い。
- ・分別がわからない。
- ・雑がみとその他の紙の分別がわかりづらかったので、一緒になって良かった。
- ・その他の紙が変更される理由がわからない。

○ごみ袋の有料化に関すること

- ・有料化すれば減量効果はあると思う。
- ・有料化には反対。
- ・有料化により不法投棄が増えるというなら、市民の民度の低さの表れだと思う。
- ・有料化し、名前を記入させ、記入のないごみは収集しないと良いと思う。
- ・有料化が無くなってうれしいが、他市町村と比べ気軽に捨てられるため意識が低いのだと思った。
- ・有料化は低所得者には困る。
- ・札幌市のように有料化しても、枯葉などは無料で回収などを考えていただきたい。

○指定袋制度に関すること

- ・指定袋制度が中止になりほっとしている。今のままで良い。
- ・今すぐにはなくても長期的にみて再検討してもよいのでは。前に住んでいたところは記名していたので、自分が排出したごみという意識が高まる。
- ・指定袋制度をやめたことは時代に逆行している。
- ・記名するのはプライバシーの観点から抵抗がある。
- ・指定袋は必要だと思うが、値段はさほど変わらないものが良いと思う。
- ・他地区や他市町村からの持込をわかりやすくするために、指定袋や記名することに賛成。

○ごみの減量に関すること

- ・水切りを徹底させる。
- ・スーパーなどでトレーを使わない。過剰包装しない。
- ・ビラ配りをやめてほしい。
- ・ごみを減量の目標達成することで、市民生活がどうなるのか明確にし、目標を見える化してやる気を起こさせるのがいいと思う。

- ・コンポストを利用する。
 - ・ごみ減量に協力していきたい。
- カラス対策に関すること
- ・カラス対策が甘い。回収されるまで見張っており困っている。
 - ・ネットだとカラスの被害が多い。
- アンケートに関すること
- ・戸別訪問で詳細に。
 - ・アンケート用紙自体が資源の無駄。立派すぎる。
 - ・今回初めて知ったことが多かった。協力していきたいと思う。
- 環境教育・指導に関すること
- ・幼少期からの教育が大事。
 - ・アパート管理者にも徹底した教育が必要。
 - ・ルールを守らない人が多いので、大人も教育することが必要。
- 回収ボックスに関すること
- ・回収場所が少ない。
 - ・回収場所まで持っていくのが面倒。
 - ・回収場所を知らない人が多い。
 - ・使用済小型家電回収ボックス、衣類回収ボックスができたことは素晴らしいことだと思う。
- リサイクルに関すること
- ・スーパーで白いトレイでないと回収できないところがある。売る側も回収できるトレイで販売してほしい。
 - ・リサイクルが本当に役立っているか疑問。
 - ・ポイントが付くりサイクルボックスがスーパーにあればやる気になる。
 - ・リサイクルに関する情報をもっとほしい。
- 不法投棄に関すること
- ・腐敗したりんごの不法投棄、野焼きについて指導する。
 - ・他地区・近隣自治体からの持込について取り締まってほしい。
 - ・不法投棄に対する罰則の強化。

○市民の意識・モラルに関すること

- ・ 県外から来たが、分別の意識が低いと感じた。
- ・ 個人の意識の問題なので、何回も伝える必要がある。
- ・ 若い人より年配の人の意識が低いと思う。燃えるごみと燃えないごみの2種類しか頭の中に入らない。
- ・ 市民の関心の薄さ。

○冊子やアプリの活用に関すること

- ・ 「ごみの分け方・出し方」の冊子を数年に1度、毎戸に配布してほしい。
- ・ スマホがないので分け方の冊子がほしい。
- ・ アプリは便利で利用している。

○ポイント制に関すること

- ・ 民間回収にポイント還元システムがあれば良い。それを市内のスーパー、コンビニ等で利用できるようなメリットがあれば取り組む姿勢も変わると思う。
- ・ ポイント還元システムがあるスーパーの周知。
- ・ ポイントが貯まるとエコバックと交換できるとかあれば良い。
- ・ リサイクルモアのようなものを増やす。

○ごみ処理場に関すること

- ・ ごみ焼却場の能力を高める。
- ・ 最終処分場を見学したい。
- ・ 燃えるごみは分別しないで高温で燃やして埋めてしまえば良いのではないかと。

○草木の処分に関すること

- ・ 有料でも良いので、草木を回収してほしい。
- ・ 剪定枝が多いため、破碎機の貸し出しがあれば改善される。

○高齢者・高齢化に関すること

- ・ 高齢のため簡単にごみ出しができるようにしてほしい。
- ・ 高齢になると分別が大変。
- ・ 老夫婦のため回収ボックスまでの持参が大変。

○その他

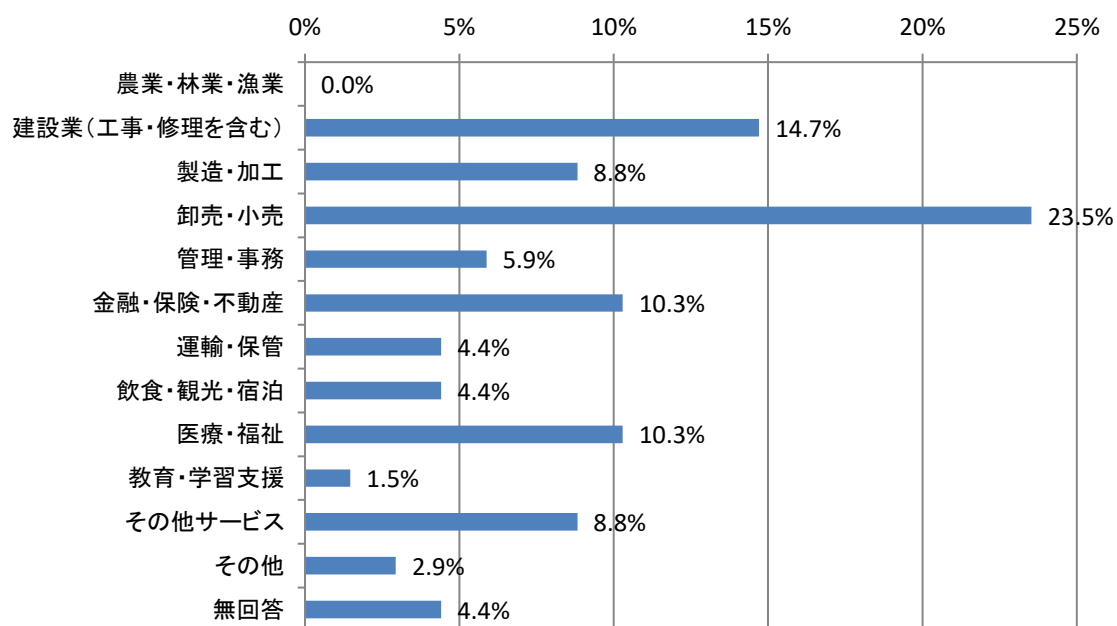
- ・ 農家は大変だと思いが、わら焼きの煙をなんとかしてほしい。
- ・ 町内会で話し合う。
- ・ 生ごみは自宅の植木や野菜の肥料にしている。
- ・ 町内会の当番をされていなくても自発的に常に掃除してくださる方がいる。
- ・ 農家の方が袋にりんご等、畑の作物を燃えるごみの日に多々出しているのを見ることがある。それが昼になると腐ったりする。
- ・ メリットがない、またわからないことはやらない。

7. 事業者アンケート調査結果

I. 事業所の概要について

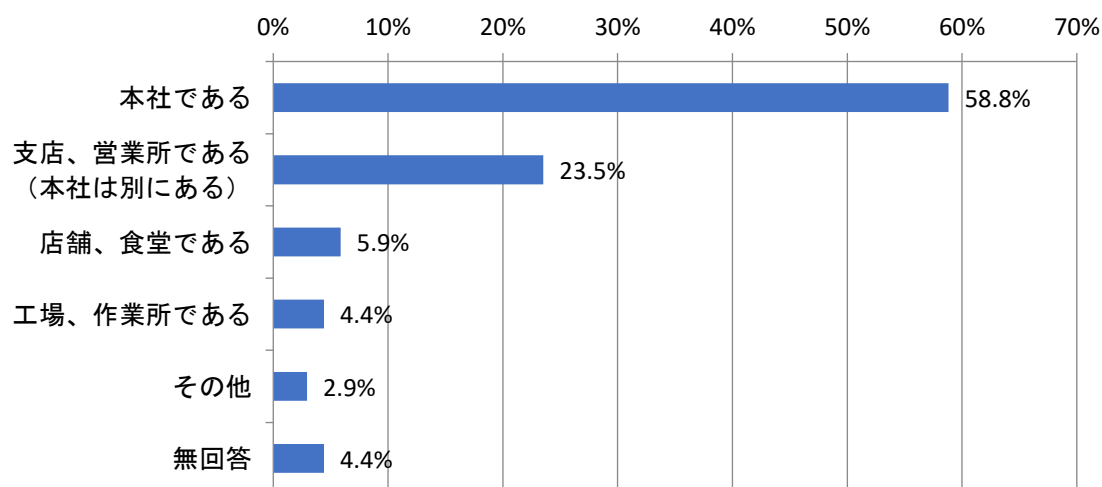
問1. 業種

業種を聞いたところ、「卸売・小売」が23.5%、次点で「建設業（工事・修理を含む）」が14.7%、「金融・保険・不動産」・「医療・福祉」がそれぞれ10.3%と続きました。



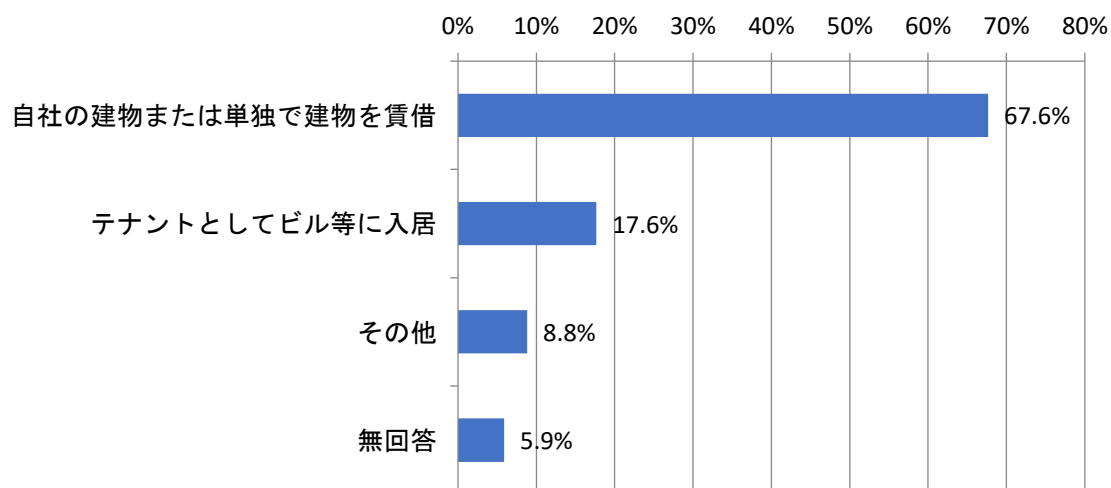
問2. 業務形態

業務形態を聞いたところ、「本社である」が58.8%と最も多く、全体の約6割を占めました。



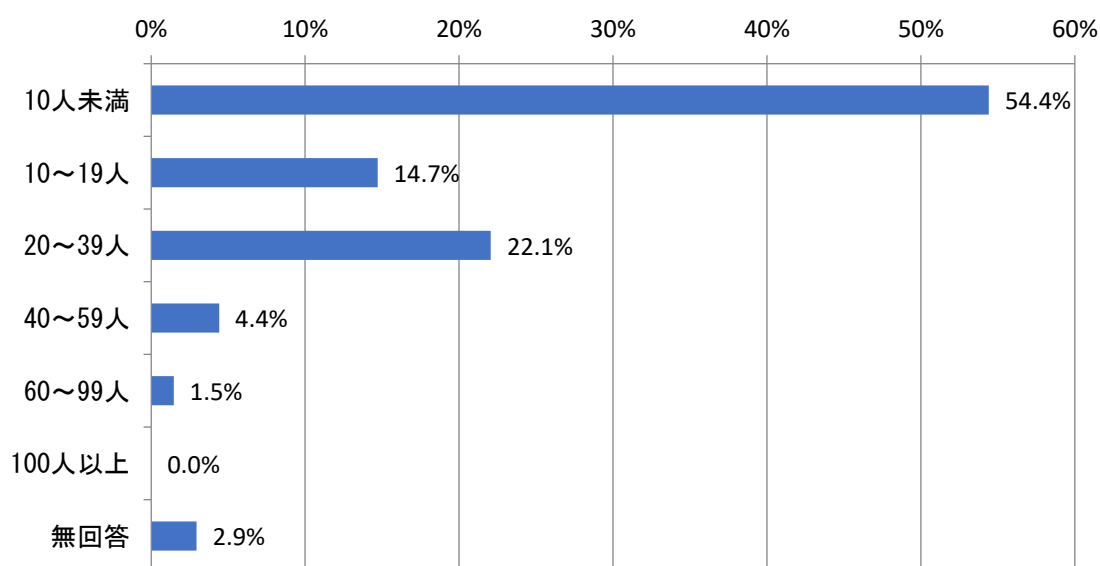
問3. 入居形態

入居形態を聞いたところ、「自社の建物または単独で建物を賃借」が67.6%と最も多い結果となりました。問2の業務形態において、本社を選択した回答が多く見られている影響も考えられます。



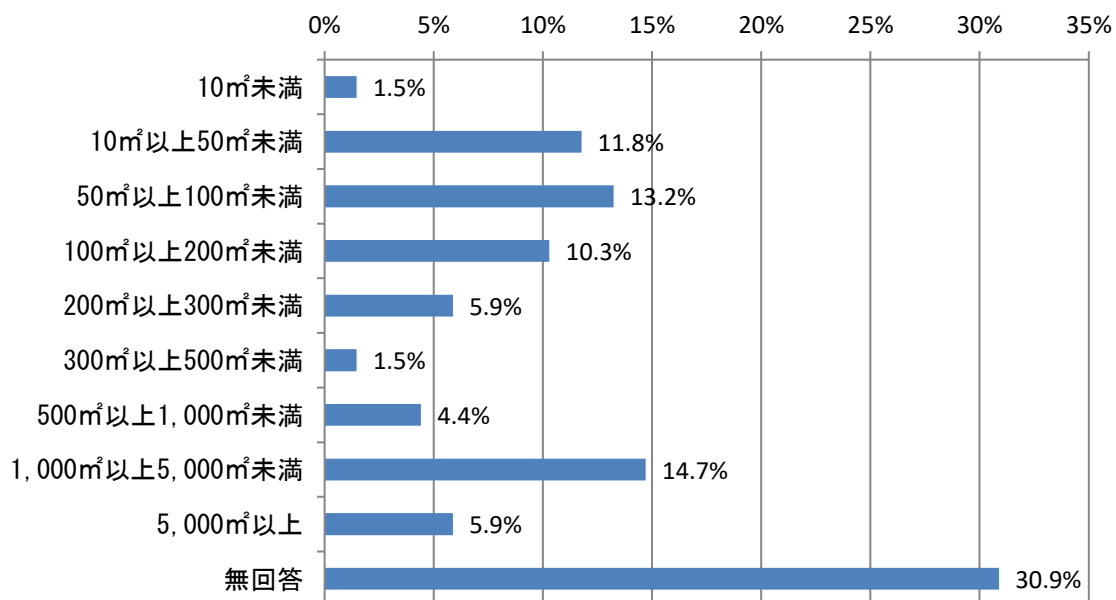
問4. 従業員数

事業所の従業員数を聞いたところ、「10人未満」が54.4%と半数を占めました。続いて「20～39人」が22.1%、「10～19人」が14.7%で、「100人以上」と回答した事業者については、該当者はありませんでした。



問5. 延べ床面積

事業所の延べ床面積を聞いたところ、最も多かったのが「1,000㎡以上5,000㎡未満」で14.7%でした。



Ⅱ. ごみの排出状況について

問6. ごみ発生量、資源物の量について

事業所におけるごみ発生量、資源物の量について聞いたところ、15件の回答がありました。従業員数や業種により、発生するごみの量や資源物の量が異なるため、ここではごみ発生量のうち資源物が占める割合を中心に算出しています。

今回の調査では、年間・月間による大きな差は見られず、ごみ発生量と資源物の割合も、業者によって異なりますが、資源物の割合が10%未満の事業所もある一方で、50%以上と回答した事業所は6件ありました。

(kg)	年間ごみ発生量		(kg)	月間ごみ発生量	
	うち資源量(kg)	資源量割合		うち資源量(kg)	資源量割合
1	0	0.0%	0.08	0	0.0%
15	10	66.7%	1.5	1	66.7%
24	12	50.0%	2	1	50.0%
25	5	20.0%	2	0.5	25.0%
30	24	80.0%	2.5	2	80.0%
30	10	33.3%	2.5	0.83	33.3%
60	24	40.0%	5	2	40.0%
100	0	0.0%	8.33	0	0.0%
120	100	83.3%	10	8.33	83.3%
120	12	10.0%	10	1	10.0%
180	120	66.7%	15	10	66.7%
400	100	25.0%	30	10	33.3%
600	36	6.0%	50	3	6.0%
9,738	6,550	67.3%	811	546	67.3%
65,000	4,500	6.9%	5,000	370	7.4%

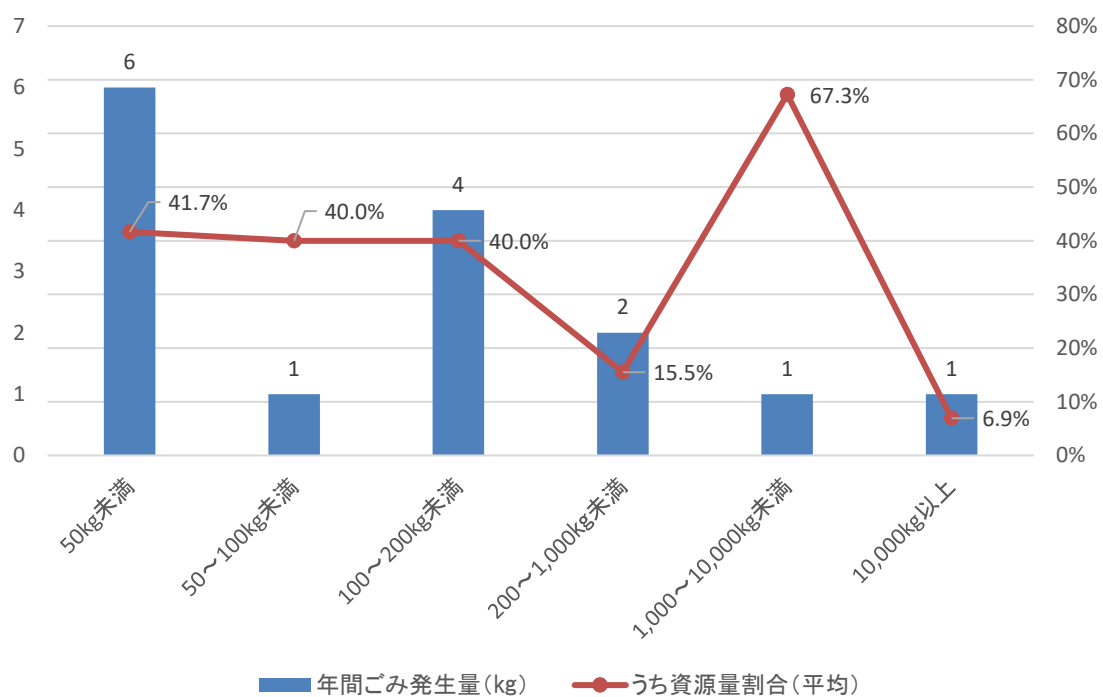
・事業所から出るごみ発生量

年間ごみ発生量			月間ごみ発生量		
ごみ発生量範囲	件数	うち資源量割合（平均）	ごみ発生量範囲	件数	うち資源量割合（平均）
50kg 未満	6	41.7%	5kg 未満	6	42.5%
50～100kg 未満	1	40.0%	5～10kg 未満	2	20.0%
100～200kg 未満	4	40.0%	10～50kg 未満	4	48.3%
200～1,000 kg 未満	2	15.5%	50～100kg 未満	1	6.0%
1,000～10,000kg 未満	1	67.3%	100～1,000kg 未満	1	67.3%
10,000kg 以上	1	6.9%	1,000kg 以上	1	7.4%

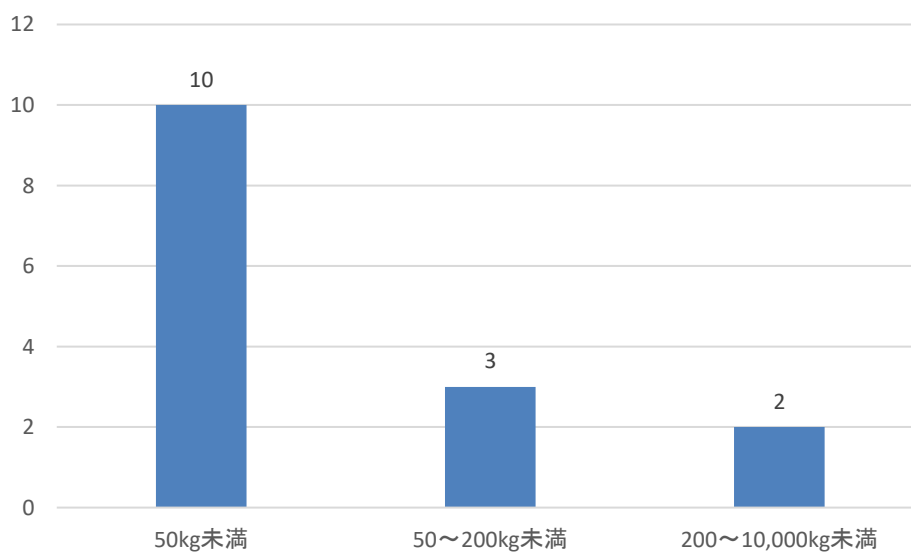
・事業所から出る資源物発生量

資源物量範囲（年間）	件数	資源物量範囲（月間）	件数
50kg 未満	10	5kg 未満	10
50～200kg 未満	3	5～100kg 未満	3
200～10,000kg 未満	2	100～1,000kg 未満	2

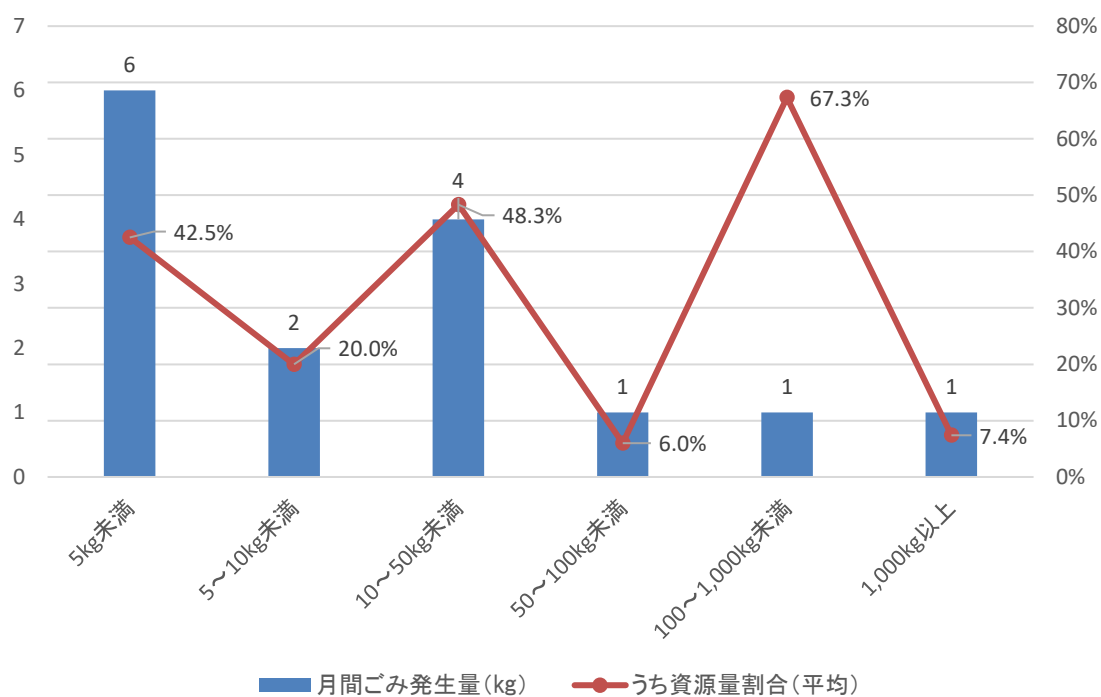
ごみ発生量（年間）



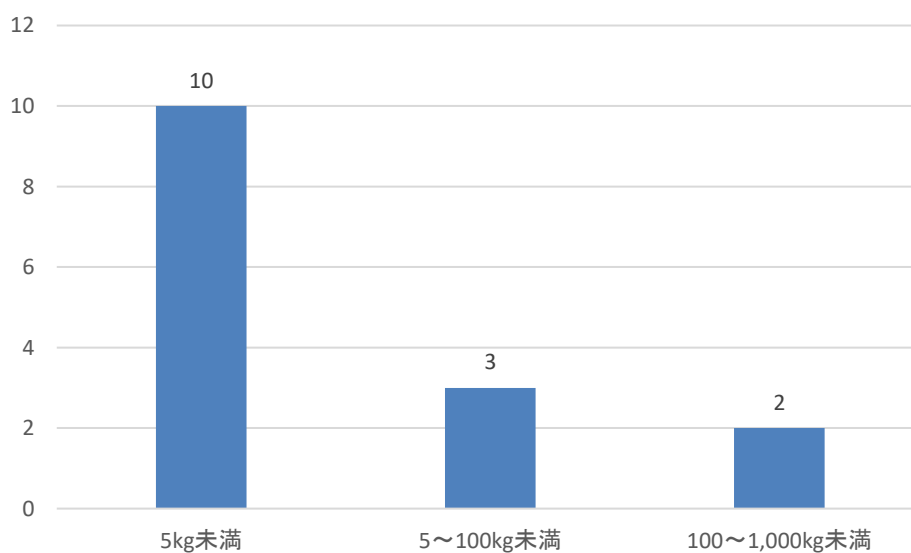
資源物発生量（年間）



ごみ発生量（月間）

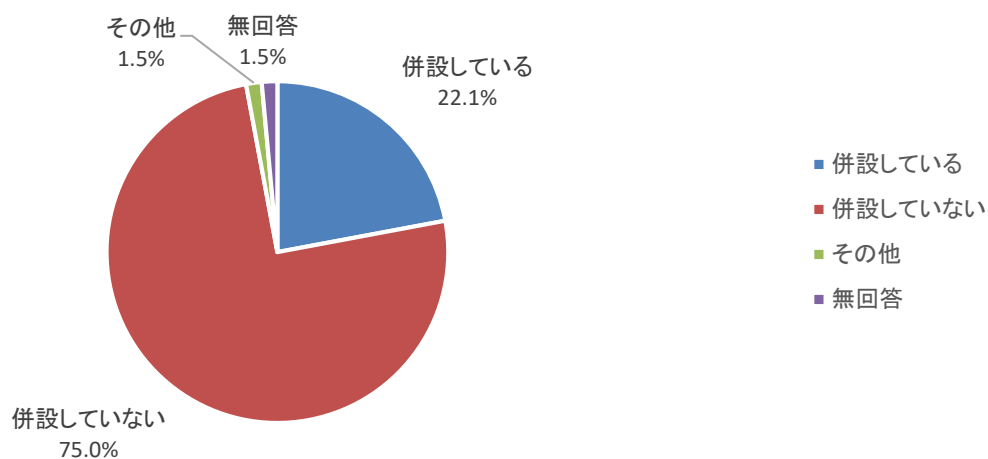


資源物発生量（月間）



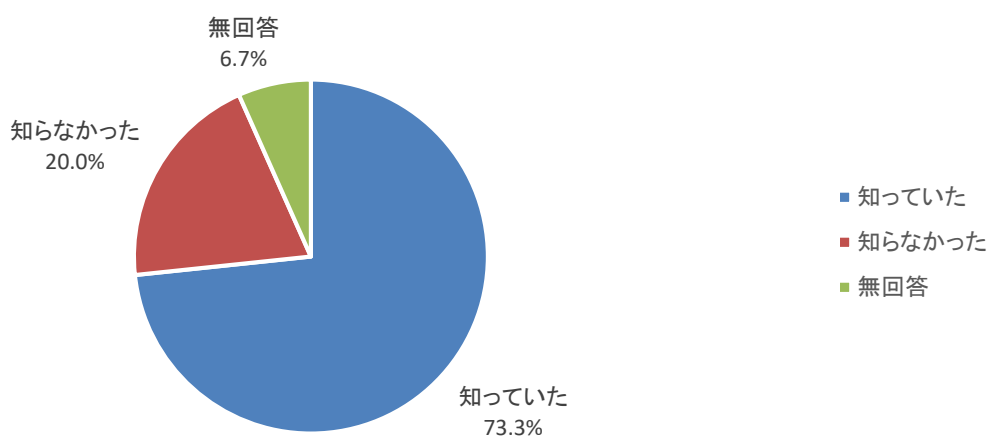
問7. 住宅の併設について

事業所が住宅を併設しているか聞いたところ、「併設していない」が75.0%を占め、「併設している」と回答があったのは22.1%でした。



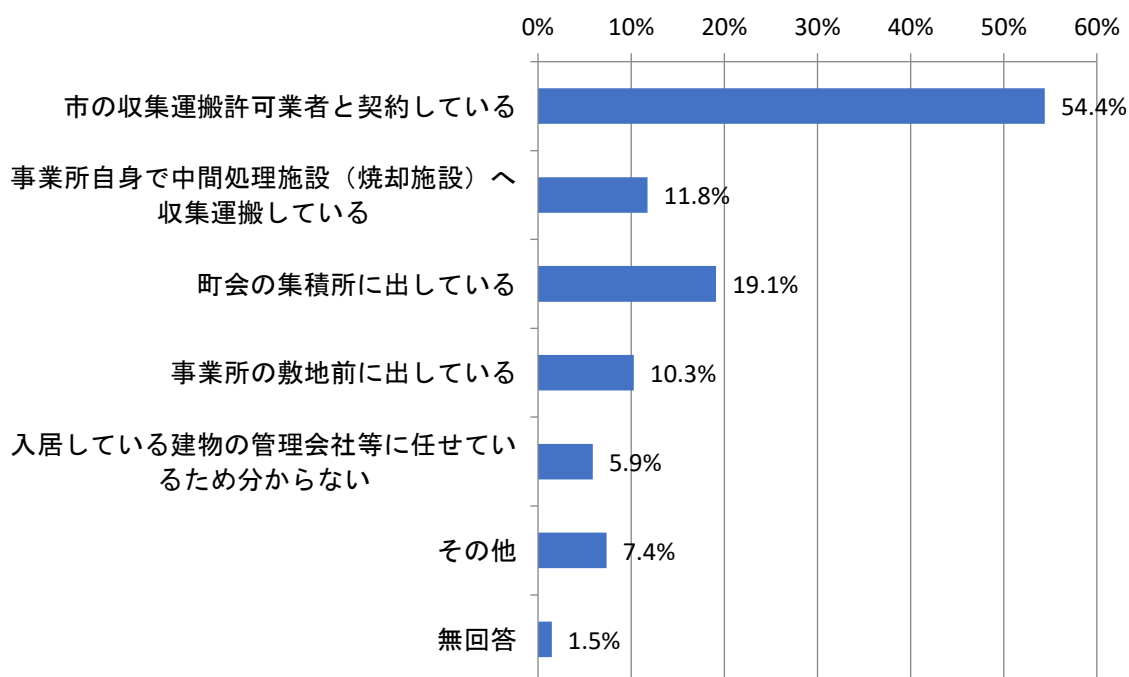
問8. 併用住宅のごみ処理について

問7で「併設している」と回答した方に、事業所分と住居分のごみを別々に処理する必要があることについて聞いたところ、「知っていた」が73.3%、「知らなかった」と回答があったのは20.0%でした。



問9. ごみ処理体制について

事業所のごみ処理体制について聞いたところ、「市の収集運搬許可業者と契約している」が 54.4%と最も多く、一方で、「町会の集積所に出している」「事業所の敷地前に出している」と回答があったものは、全体の 29.4%を占めました。

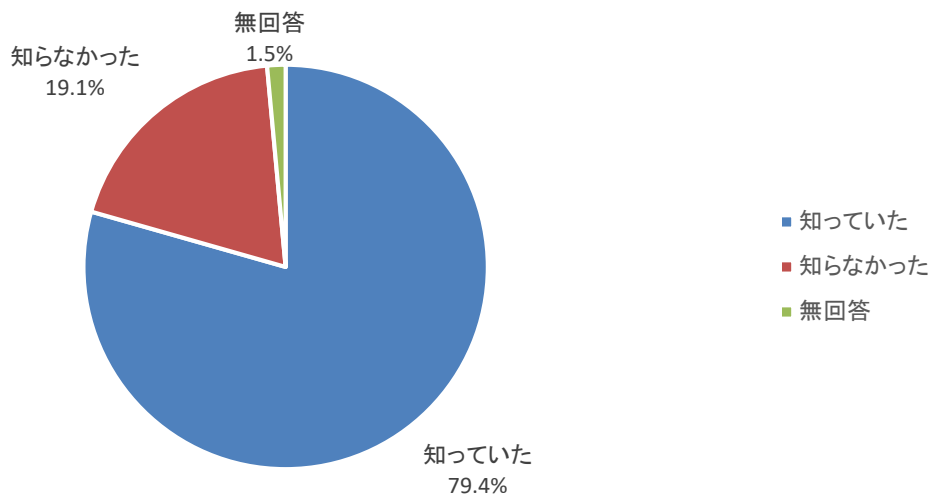


（その他内訳）

ごみの発生はほとんど無い/産廃処理業者へ自ら運搬している

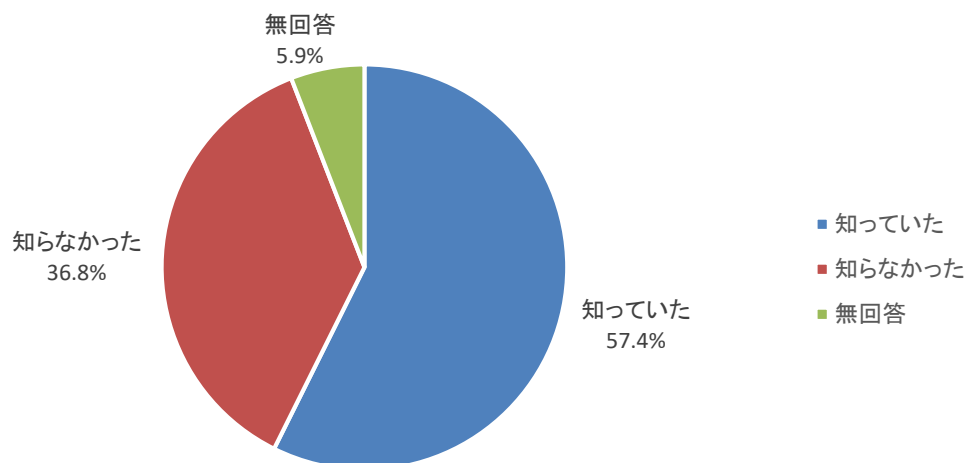
問10. 産業廃棄物と事業系ごみ（事業系一般廃棄物）

事業所からでるごみの区分について聞いたところ、「知っていた」が79.4%、「知らなかった」と回答があったのは19.1%でした。



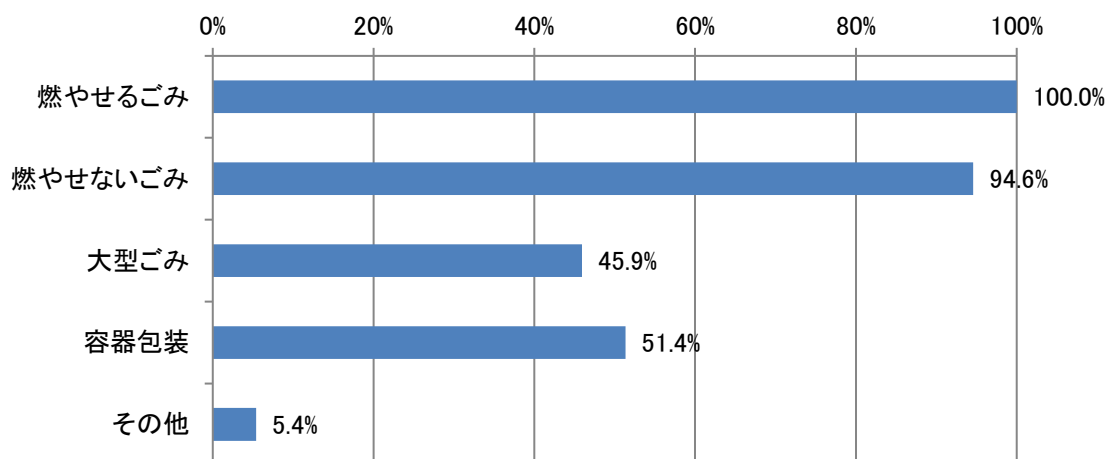
問11. 事業系ごみの区分について

事業系ごみとは事業活動により生じるごみのことであり、その事業活動には小さな規模の個人商店や店舗付き住宅なども含まれることについて聞いたところ、「知っていた」と回答した事業者は57.4%でした。「知らなかった」を上回っているものの、認知度はあまり高くないことがわかりました。



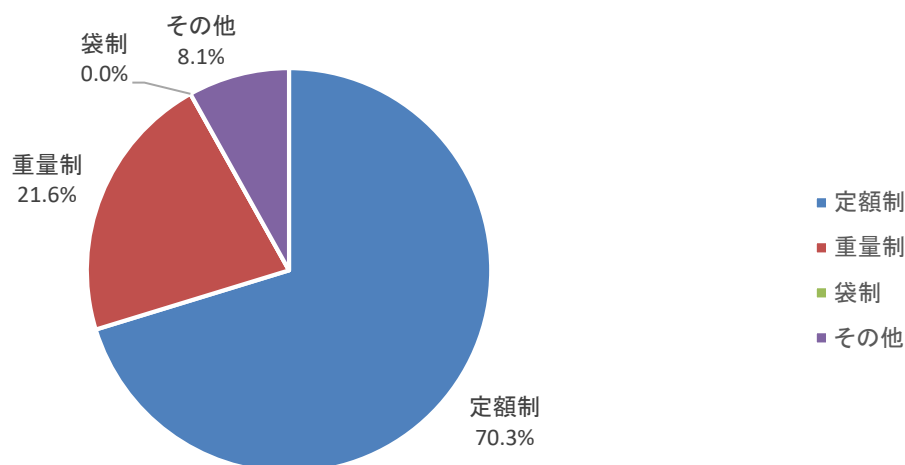
問 1 2. 業者と契約している分別区分

問 9 で「市の収集運搬許可業者と契約している」と回答した事業者に対し、業者と契約している分別区分について聞いたところ、「燃やせるごみ」については全事業者が契約していると回答し、続いて「燃やせないごみ」・「容器包装」・「大型ごみ」の順に続きました。その他の区分については、ダンボール、古紙等の回答がありました。



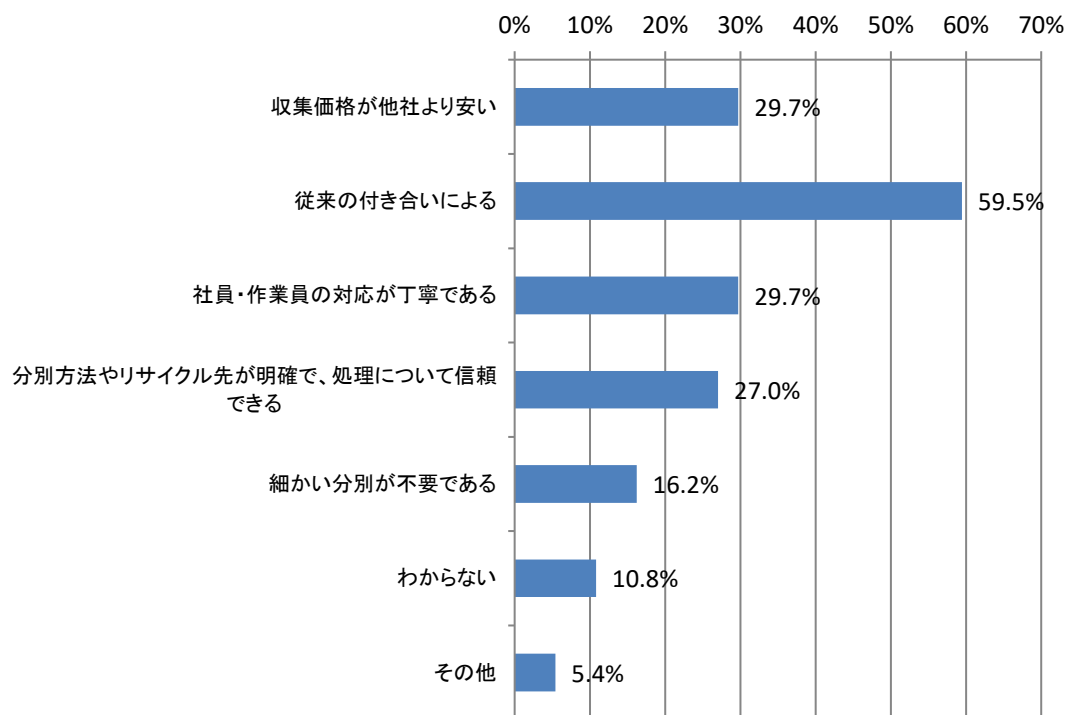
問 1 3. 料金体系

問 9 で「市の収集運搬許可業者と契約している」と回答した事業者に対し、業者と契約している料金体系について聞いたところ、「定額制（一定期間で決まった額を支払う）」が 70.3%で、「重量制（出したごみの重さに応じて支払う）」は 21.6%の回答がありました。なお、「袋制（出したごみ袋の枚数に応じた額を支払う）」と回答した事業者はいませんでした。



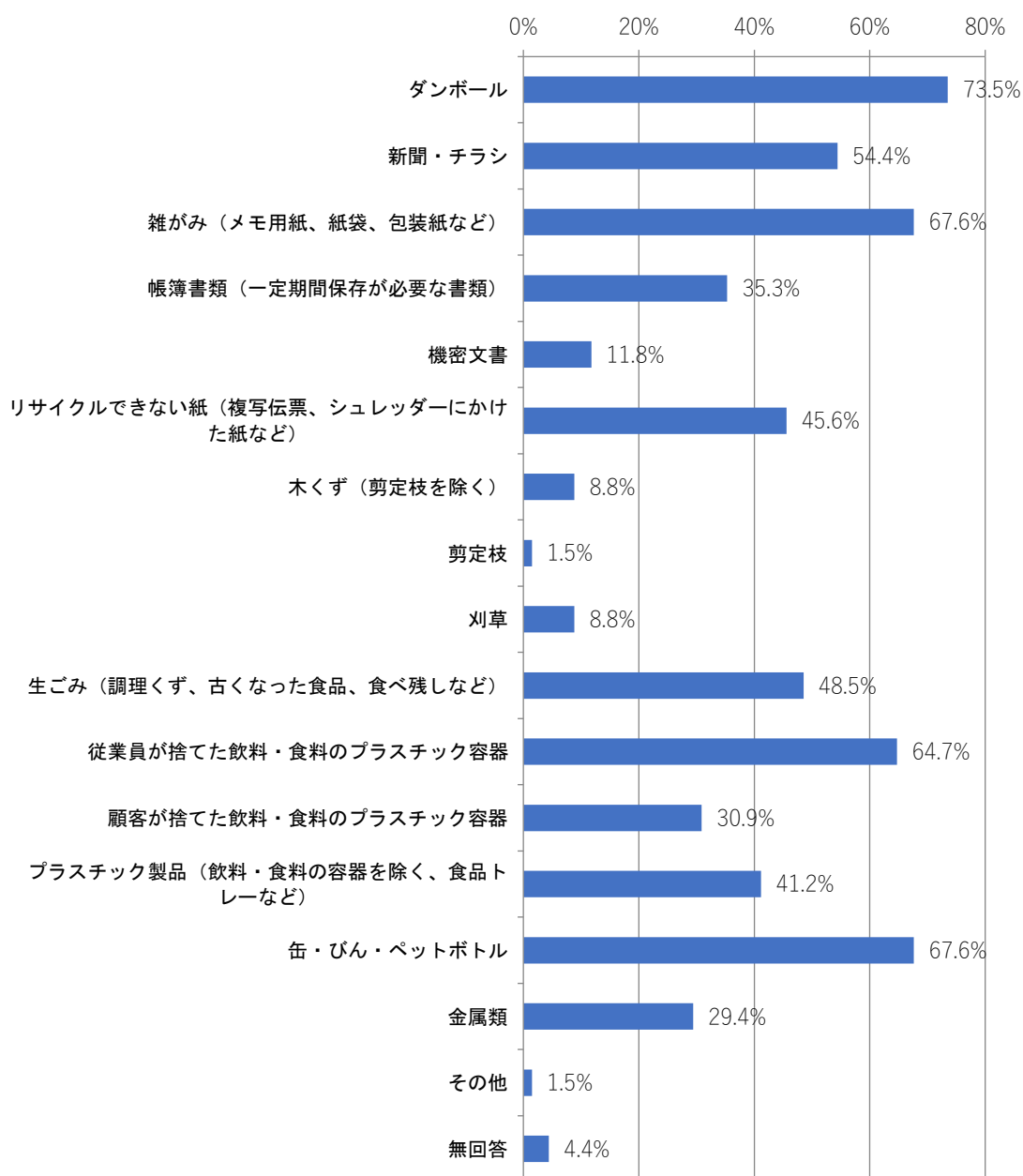
問 14. 収集運搬許可業者を選ぶ際の基準

問 9 で「市の収集運搬許可業者と契約している」と回答した事業者に対し、業者を選ぶ際の基準について聞いたところ、「従来の付き合いによる」が 59.5%と最も多く、「社員・作業員の対応が丁寧である」が 29.7%と続きました。



問15. 排出されるごみの種類について

事業所から排出されるごみの種類について聞いたところ、最も多かったのが「ダンボール」の73.5%で、次いで「雑がみ（メモ用紙、紙袋、包装紙など）」67.6%、「缶・びん・ペットボトル」67.6%、「従業員が捨てた飲料・食料のプラスチック容器」64.7%と続きました。



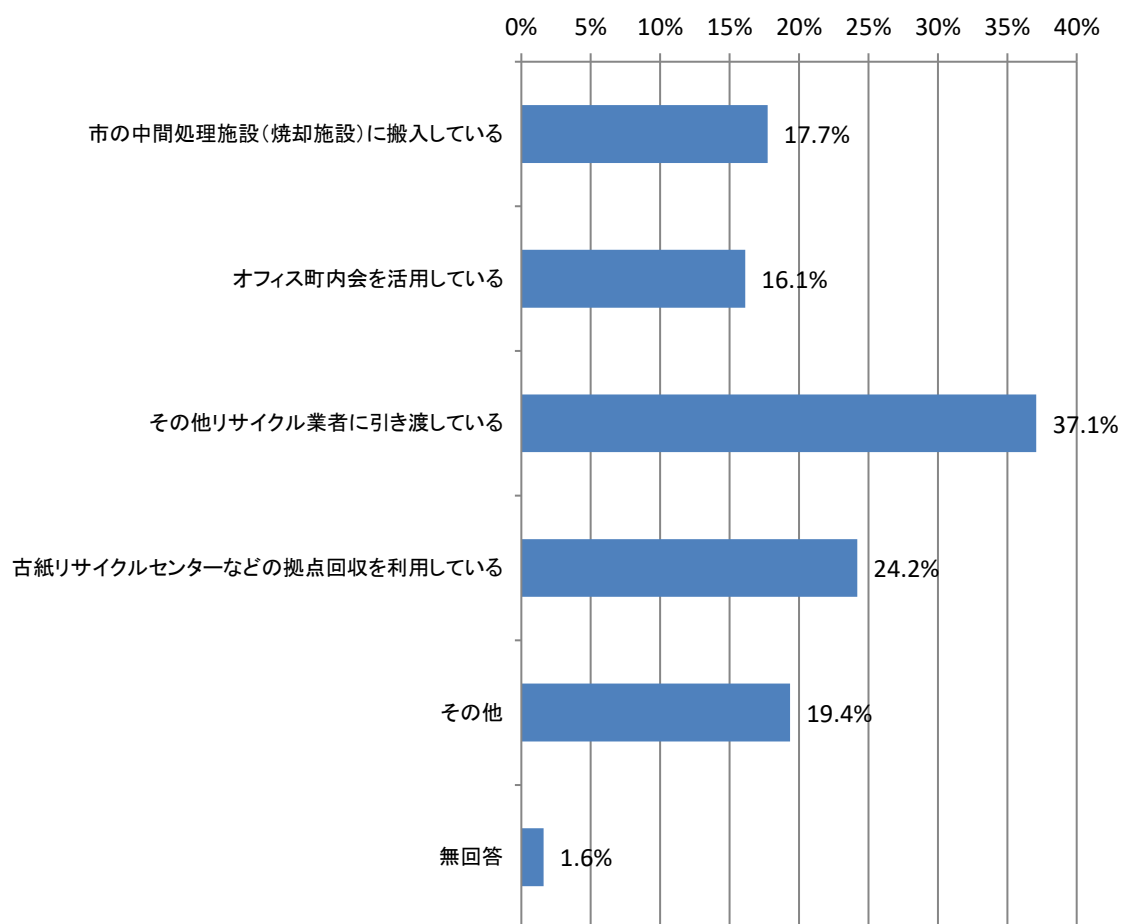
（その他内訳）

蛍光灯/スポットライト

問16. 古紙類の処理

問15で「ダンボール」、「新聞・チラシ」、「雑がみ」、「帳簿書類」のいずれか1つでも選択した事業者に古紙類の処理方法について聞いたところ、「その他リサイクル業者に引き渡している」が37.1%、「古紙リサイクルセンターなどの拠点回収を利用している」が24.2%と続きました。

その他の意見として、業者回収、地域の資源回収運動、燃やせるごみに混ぜて出しているという回答がありました。

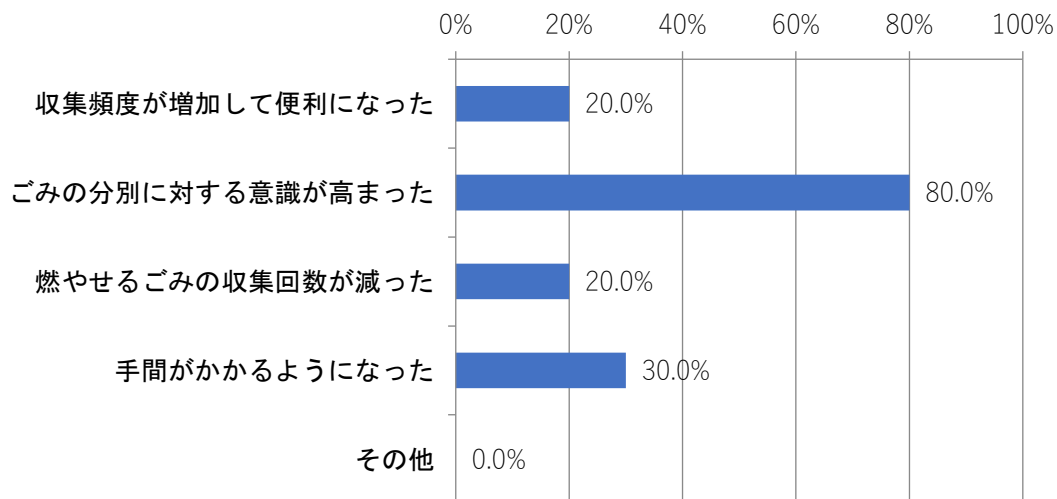


(その他内訳)

業者回収/地域の資源回収運動/燃やせるごみに混ぜている

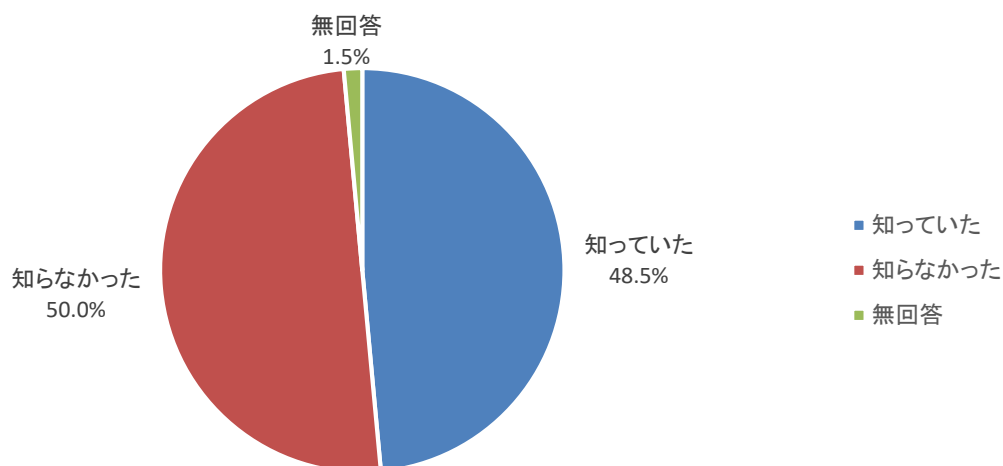
問17. オフィス町内会について

問16で「オフィス町内会を活用している」と回答した事業者に活用への感想を聞いたところ、「ごみの分別に対する意識が高まった」が80.0%と最も多くの割合を占めました。



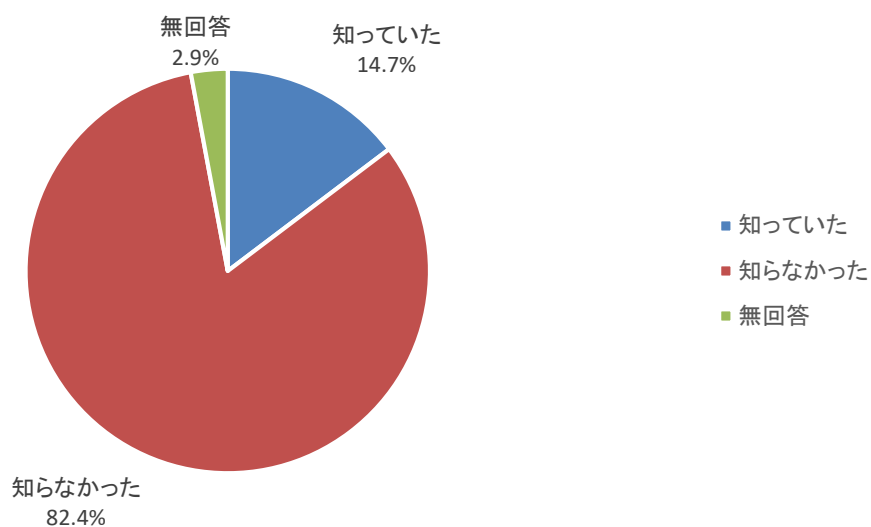
問18. 弘前市の事業所から出るごみ排出量

弘前市の事業所から出るごみ排出量が全国及び青森県内と比較して多いことに関して聞いたところ、「知らなかった」の50.0%に若干及ばなかったものの、「知っていた」が48.5%と、おおよそ半数が認知していることがわかりました。



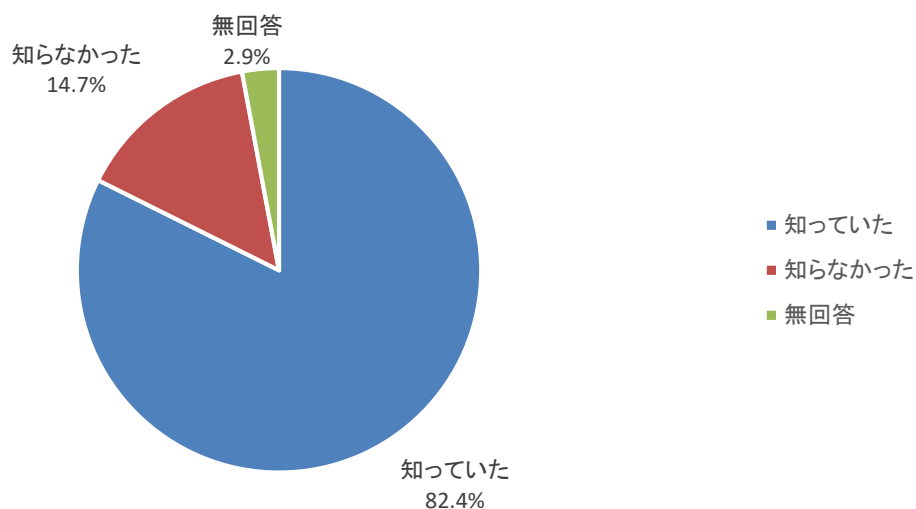
問19. ごみの削減量値の設定について

弘前市において、平成32年度までに事業所から出るごみを1人1日300グラムにする目標を設定していることに関して聞いたところ、「知らなかった」と回答した事業者が82.4%を占め、ごみの削減量値についての周知を進めていく必要があります。



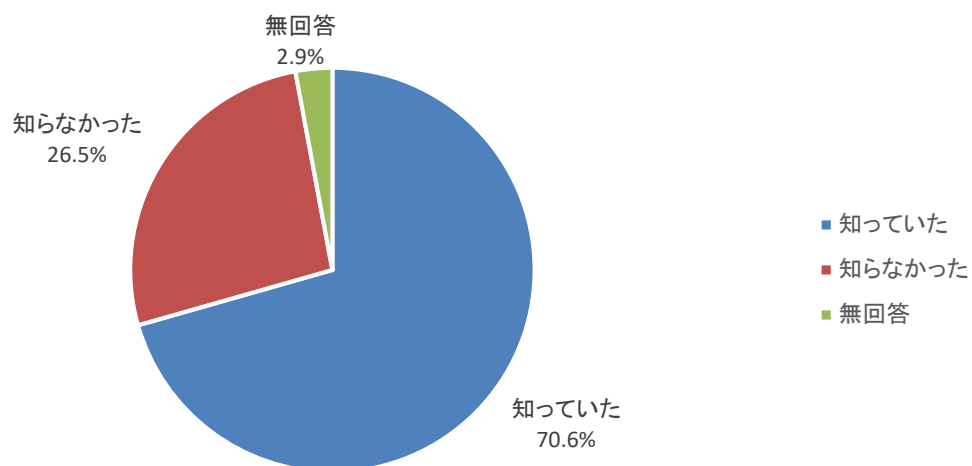
問20. ごみ処理経費について

弘前市のごみ処理経費には、多額の税金がかかっていることについて聞いたところ、事業者の82.4%が「知っていた」との回答があり、ごみ処理経費の問題に関しては認知度が高いことがわかりました。



問21. 中間処理施設（焼却施設）の認知度について

弘前市内にある2つの中間処理施設（焼却施設）について聞いたところ、70.6%が「知っていた」との回答があり、認知度が高いことがわかりました。

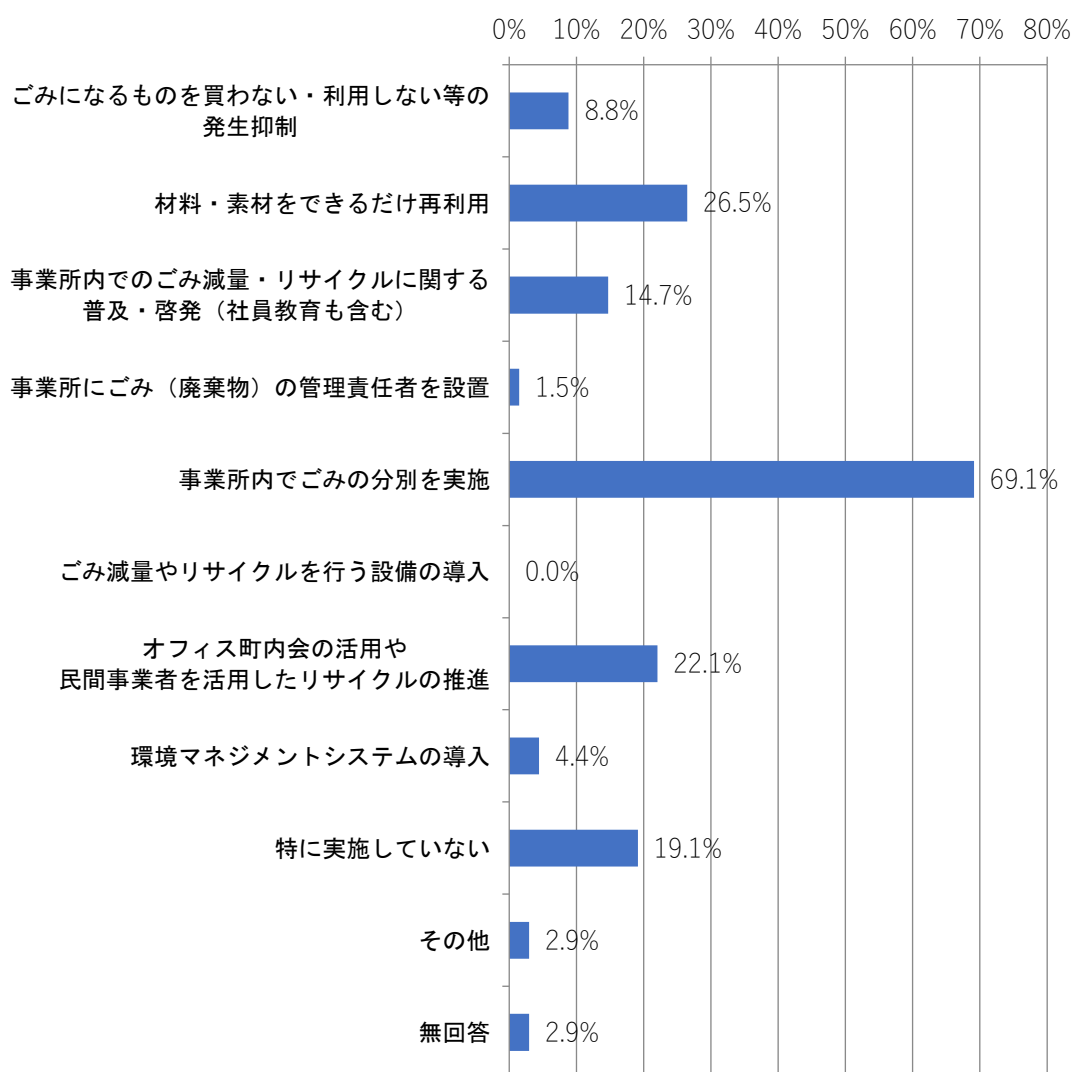


Ⅲ. ごみ減量・リサイクルに関する取組状況について

問 2 2. ごみ減量・リサイクルに関する取組状況

事業所において日頃どのようなごみ減量・リサイクルに関する取組を行っているか聞いたところ、「事業所内でごみの分別を実施」という回答が 69.1% ありました。次いで「材料・素材をできるだけ再利用」26.5%、「オフィス町内会の活用や民間事業者（オフィス町内会以外）を活用したリサイクルの推進」22.1%と続きました。

その他の意見として、コピー用紙の裏紙再利用などもありました。

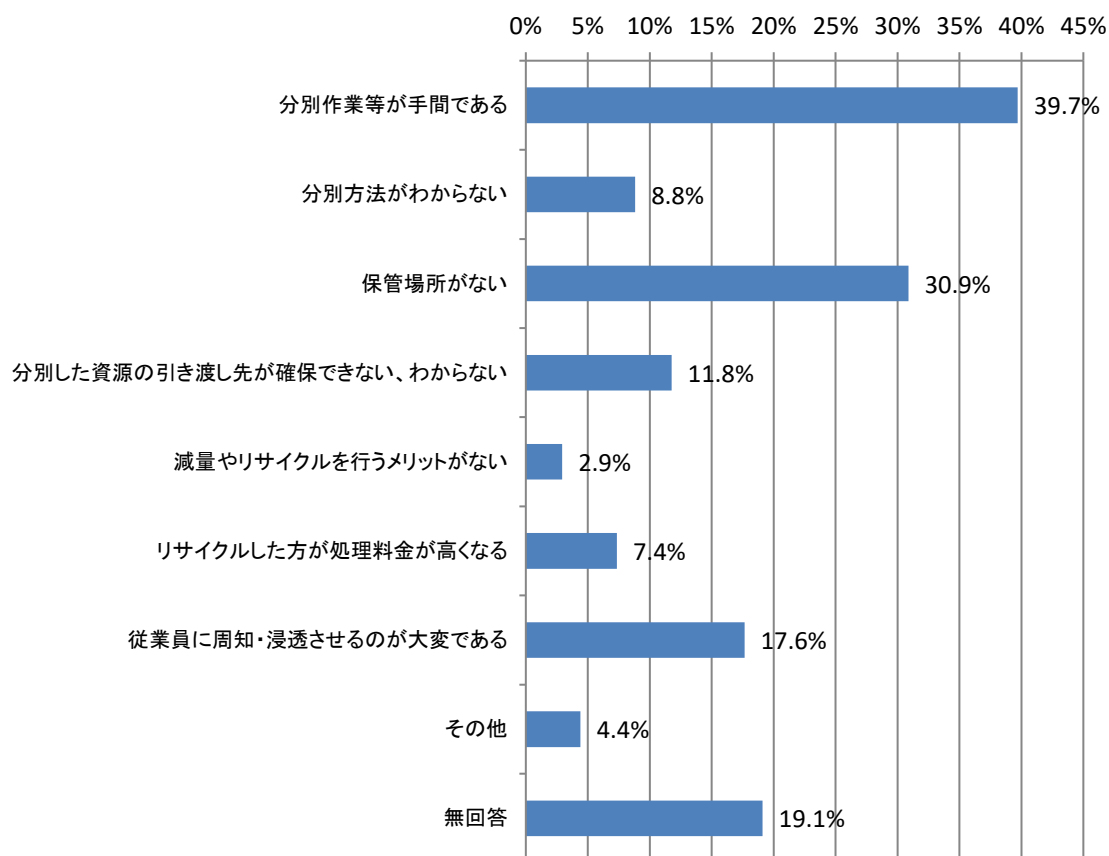


（その他内訳）

家に持って帰る/コピー用紙の裏紙再利用

問23. ごみ減量・リサイクルを進めていく上での課題

事業所においてごみ減量・リサイクルを進めていく上での課題を聞いたところ、「分別作業等が手間である」が39.7%、「保管場所がない」が30.9%との回答が多く、次いで「従業員に周知・浸透させるのが大変である」が17.6%と続きました。



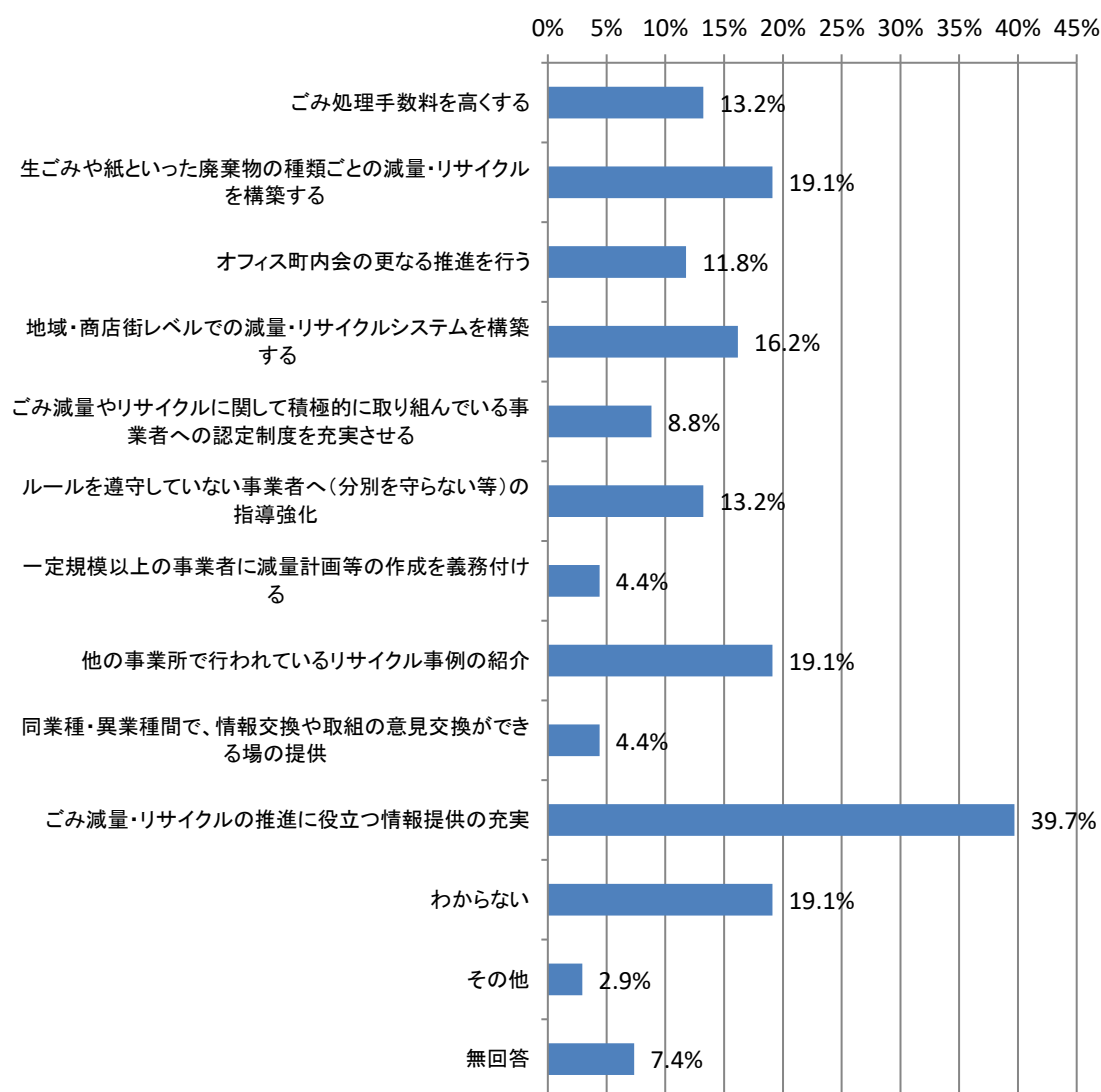
(その他内訳)

ごみがほとんど出ないため考えていない/常に行っている

問24. 行政の対策について

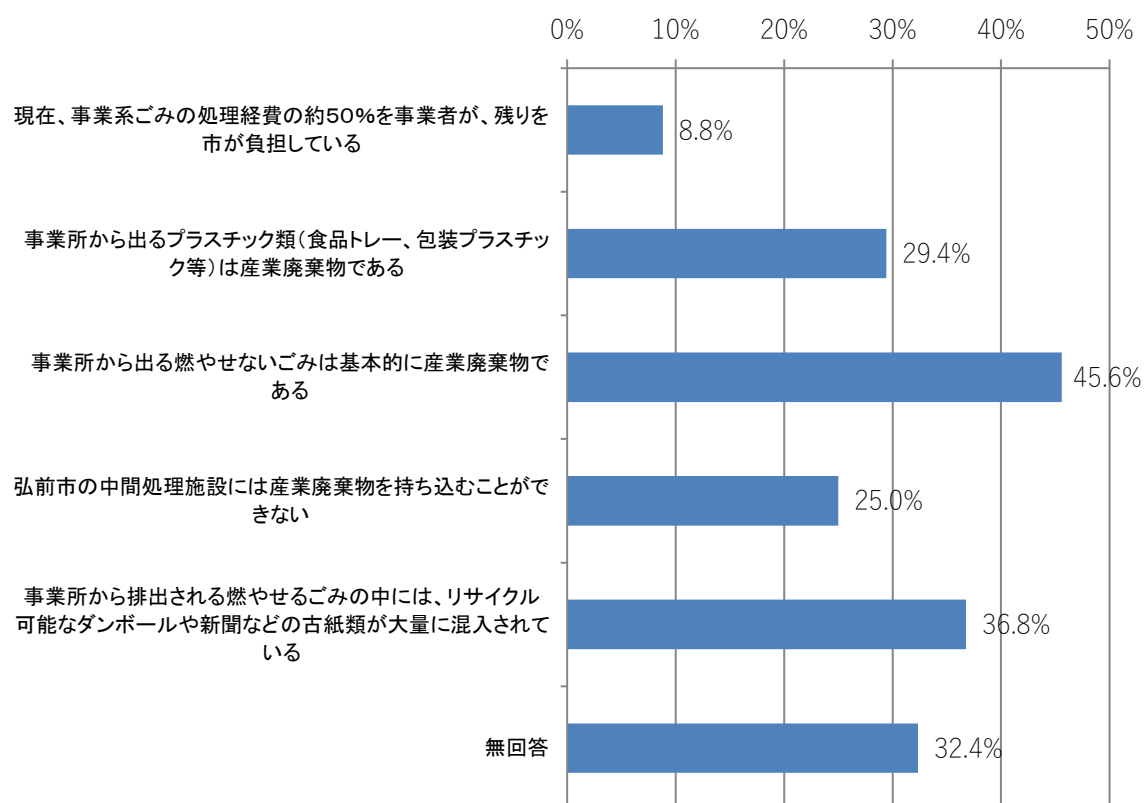
ごみ減量・リサイクルを進めていくにあたり、行政がどのような対策を実施する必要があるかどうか聞いたところ、「ごみ減量・リサイクルの推進に役立つ情報提供の充実」が39.7%と最も多く、次いで、「生ごみや紙といった廃棄物の種類ごとの減量・リサイクルを構築する」19.1%、「他の事業所で行われているリサイクル事例の紹介」19.1%となりました。

また、その他の意見として「過剰包装をやめる」「ごみ袋を有料にする」という意見などがありました。



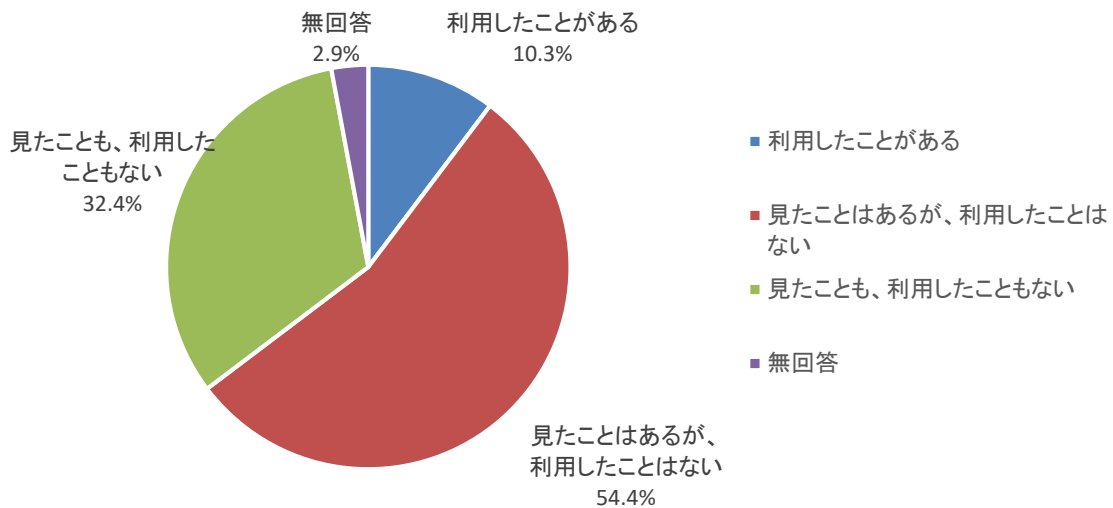
問25. ごみ排出・処理のルールについて

ごみ排出・処理のルールについて知っているものを聞いたところ、「事業所から出る燃やせないごみは基本的に産業廃棄物である」を知っていると答えた割合が45.6%と最も多かったものの、「現在、事業系ごみの処理経費の約50%を事業者が、残りを市が負担している」ということに関しては全体の8.8%しか知らされておらず、事業系ごみの排出・処理のルールについて、事業所に周知・広報をしていく必要があります。



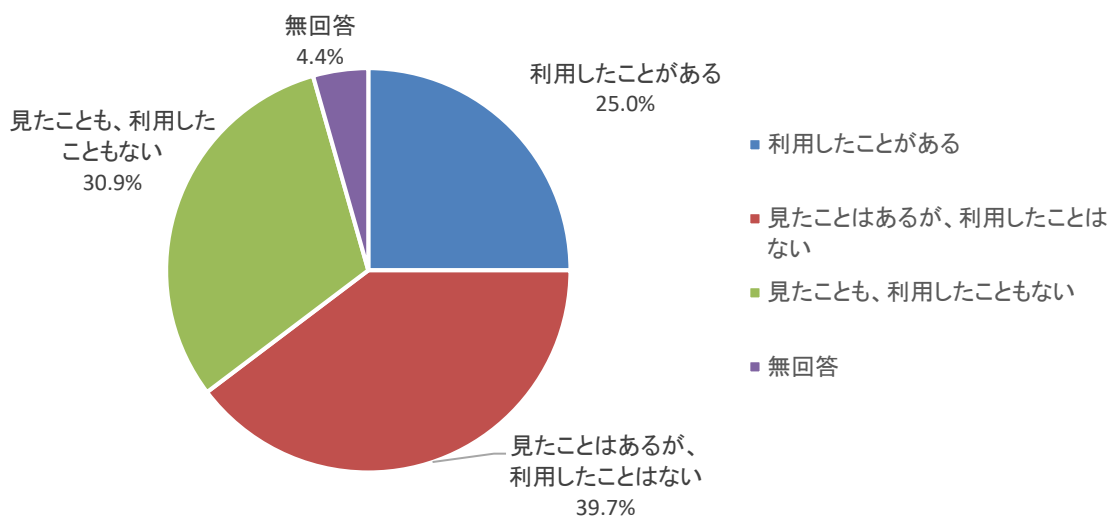
問26. 新聞・雑がみ類回収ステーション

新聞・雑がみ類回収ステーションの利用についての聞いたところ、「利用したことがある」と回答したのは10.3%となり、「見たことはあるが、利用したことはない」と答えたのは54.4%で、半数を占めました。新聞・雑がみ類回収ステーションは事業所ではあまり利用されていないことがわかりました。



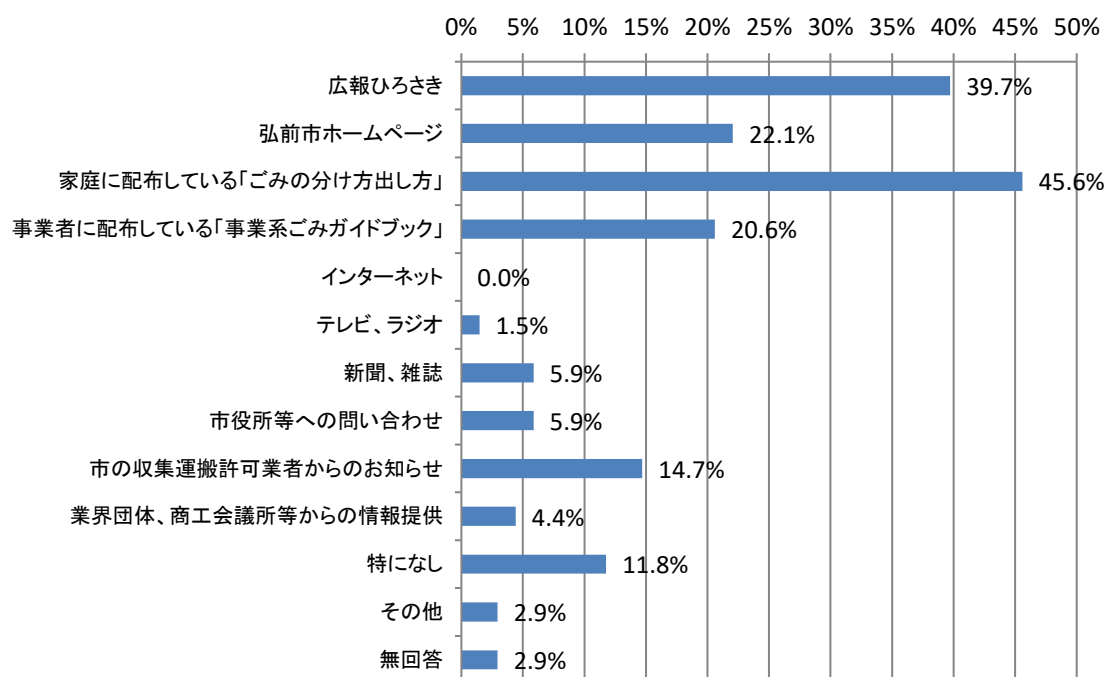
問27. 古紙リサイクルセンター

古紙リサイクルセンターの利用についての設問では、「利用したことがある」が25.0%で、「利用したことがない」が全体の約7割を占めました。



問28. ごみ減量・リサイクルに関する情報の入手手段

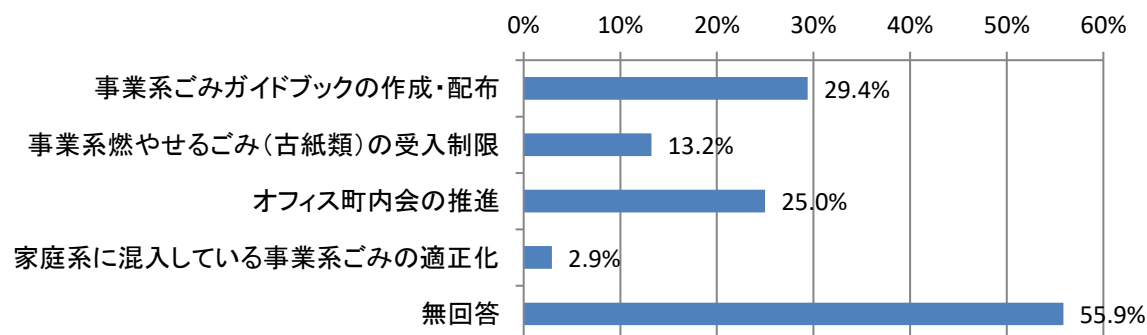
ごみ減量・リサイクルに関する情報の入手手段を聞いたところ、最も多かったのが「家庭に配布している「ごみの分け方出し方」」の45.6%で、次いで「広報ひろさき」の39.7%でした。今回の調査では、インターネットを利用して情報を得ている事業者は見られませんでした。



IV. その他（市の施策に対するご意見等）

問29. ごみ減量・リサイクルに関する施策の認知

弘前市のごみ減量・リサイクルに関する施策について聞いたところ、回答率は44%と低く、知っている施策の中で一番回答の多かった「事業系ごみガイドブックの作成・配布」でも29.4%という結果になりました。市の施策に関して、事業者に対しても広報活動が必要であると考えられます。



問30. 自由欄

行政における課題、今後の方向性についてお伺いしたところ、主なご意見として以下が挙げられました。

○行政へのご意見

- ・事業系ごみも問題はあるのですが、ごみの収集場所が多すぎるので、減量せず気軽に出しているような気がします。袋も自由ですし。収集業者の人も走りながら収集しており大変そうでした。
- ・事業所系の分別も大事だが、家庭の紙系の分類も大切。実施している家庭が少なく見える。
- ・有料化をやめ、独自の方法を取るとは思いますが、事業所への負担や市民への呼びかけが必要。
- ・弘前市のみならず、全国の個人の消費を減らす意識を持たせるべき。
- ・市外から移転してきましたが、弘前のごみの収集は意識が足りない。分別が楽でポイポイ投げられるイメージ。

○ごみの出し方について

- ・事業系ガイドブックを入手したいと思った。
- ・週に1度、緑の袋で出している。町会費を払っているので事業ごみではないです。

○事業系ごみについて

- ・事業系ごみに対する情報が不足
- ・事業系ごみの排出方法がわからない
- ・もっと周知してほしい